PERIODICAL Tuna Fishing
Jan & Feb 59 delu
#65
LIBRARY
FEB 16 1960
WILDLIFE SERVICE

鮪漁業 第六十五号 昭和三十五年一月十日発行（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

鮪漁業

TUNA FISHING

新年号

ーメカジキの処理ー

鮪漁業 研究会

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNA FISHERY ··· JAPAN ···

No. 65, 1960

謹　賀　新　年

航海計器の御相談は…………

横浜市中区弁天通6の83　電話 (2) 代表 0596—8

有限会社　宇津木計器製作所

三　崎　出　張　所　へ　！

三浦市三崎町花暮181番地
生協ホール内　電話三浦2875番
営業所　技術部　横浜・工場　本牧

六分儀・クロノメーター・甲板時計・双眼鏡・バロメーター・インジケーター
船舶時計・コムパス・回転計・圧力計・配電盤計器類・各種航海用測器類　販売・修理

海図誌の御買上は…………

日本郵船株式会社海図販売所

三　崎　出　張　所　へ　！

代行者　宇津木計器製作所

日本及び米国水路部図誌　海事図書販売

JRC　漁船用無線装置

常に新しい研究と最高技術を

定評ある送信機

優秀な受信機

新設計の船内拡声装置

超小型魚群探知機

日本の誇り
国産レーダー

漁場の測定に
ロラン受信機

安全航海に
気象模写受信装置

本社・工場　東京都三鷹市上連雀930
事業部　東京都港区芝田村町1の7
第3森ビル（5・6階）
大阪支社　大阪市北区堂島中1の22

JRC

日本無線

1960 **目 次** No. 65（新年号）

年頭のことば　神奈川県知事　内山岩太郎
新年の辞　鮪漁業研究会長　菅野　進
新年のメッセージ　米国大使館附属水産業務担当官　W. G. ヴァンキャンペン
新年によせて　神奈川県水産試験場長　永井三夫
鮪漁船紹介　第15日康丸　第18水天丸　第11良栄丸
勇喜丸　第12順光丸　第1明神丸
鮪漁況速報　1959年10月下旬，11月上旬，11月中旬
1959年1，2月に於ける鮪漁場の漁況と海況の概要（委託調査船767隻の資料に依る）……… 1
1. 操業船の分布 …………………… 1　2. 海　況 ………………………… 1
3. 漁　況 ……………………………………………………………… 1
A. 西経北部漁場（20°N以北，180°以東）……1　B. 西経中部漁場（5—20°N，180°以東）………1
C. 西経南部漁場（5°N以南，190°以東）……1　D. 東経北部漁場（20°N以北，180°以西）……1
E. 東経中部漁場（5—20°N，180°以西）……2　F. 東経南部漁場（5°N以南、130—180°E）……2
G. 東部印度洋漁場（90°E以東）…………2　H. 中，西部印度洋漁場（90°E以西）………2
月別．漁場別，鮪類漁獲調査表（1959年1月操業分）別表1…………………………… 3
月別，漁場別，鮪類体長組成表（1959年1月操業分）別表2…………………………… 7
鮪類水揚価格表（三崎）昭和34年11月，12月 ……………………………………………14
月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（1959年2月操業分）別表1……………………………16
月別，漁場別，鮪類体長組成表（1959年2月操業分）別表2……………………………19
マグロ漁況概況予報（1960年2月） ……………………………神奈川県水産試験場……27
マグロ研究報告の紹介No. 8……………………………………………………………………29
まぐろ延縄漁業における漁獲率の海区別経年変化の概観 (1)
永井三夫・中込　淳・福岡信之（神奈川県水産試験場）…………30
船上におけるキハダのグリンミート検出試験報告 ……第12住吉丸　森園民哉……32
回転式桶を用いてマグロ延縄漁具を取扱う一つの新しいこゝろみ (1)
太平洋水産研究所
ハーバート・ジエイ・マン　訳文　河口喬太郎…………37
鮪漁業研究会会員名簿 (1) ……………………………………………………………………39

表紙写真　三崎無線通信士協会写真部提供

賀正　元旦

船出の支度
石油は出光で

安全快適な航海の為に
是非・・・・・

出光興産株式会社

本社　東京・銀座東四丁目
三崎出張所　三浦市三崎町海南　電話三浦 3432

年頭のことば

神奈川県知事　内山岩太郎

輝かしい昭和35年の新春を迎えるにあたりまして鮪漁業研究会員の皆様につつしんで新年のおよろこびを申しあげます.

皆様の中には1年ないし2年にわたる長期の出漁をされこの新年をあるいはイタリヤのベニスであるいは中，南米の港で迎えられるかたがたも多いことと存じます.

数年前私が始めてこの研究会誌上で皆様に新年のごあいさつを申しあげたころにはこの様なことは想像もできなかったことで，この異常なる発展ぶりには目をみはる感があります.

特に鮪漁業界の皆様が多くの困難に打ち勝ってほとんど独力で今日の発展の基礎を築かれました御努力に対しましては心から敬服いたしております.

昨年秋には日米鮪会談が東京で開かれましたが日本の鮪漁船が全世界の海に漁場を求めて活躍している今日，この様な国際的な関心はますますたかまり，好むと好まざるとにかかわらず資源の保護，漁場または漁獲量の協定，市場の開拓等色々な面で調整の必要も生じ国際的な会議の開かれる可能性も多くなるものと想像されます．また聞くところによりますと，米国を始めイタリヤ，ソ連でも遠洋鮪延繩漁業の計画を持っているということですから，従来日本の独せん場と考えられていました遠洋鮪漁業にも世界的な競争者が，次第にふえてくるものと考えなければなりません.

このような傾向から考えますと，今後の鮪漁業界にとりましては科学的な統計資料を持つということはあらゆる面で非常に重要なかぎをにぎることになりますが，日本ではまことに幸なことに鮪漁業研究会の皆様が多年にわたってこの地味な基礎資料のしゅう集整理普及に努力してこられ，すぐれた成果を収めておられますので，今後このかぎを皆様の力でよりりっぱなものに育て，有効に活用することによってさらに大きな自然の宝庫を開くことができるものと深く信じて疑いません.

年頭にあたりまして会員の皆様の御多幸と御活躍を祈るしだいであります.

謹賀新年

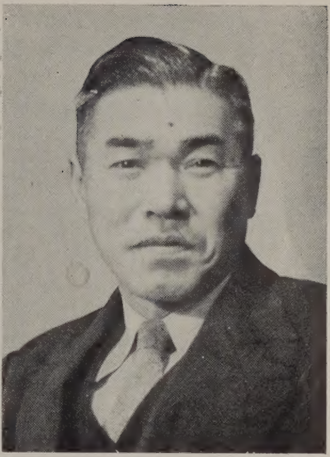
㊓ 住吉漁業株式会社

社長　四宮秀雄

神奈川県三浦市三崎町入舟62番地
電話（三浦）2603・2835番

新　年　の　辞

鮪漁業研究会々長 菅　野　進



鮪漁業研究会々員の皆々様、昭和35年の新春を迎えまして、おめでとうございます。

今年も相変りませず、本会の発展のため宜敷く、御支援と御協力の程、お願い致します。

昨年を顧り見ますと、鮪漁業に対し相当問題の多かった年と申されましょう。

先ず年頭より太平洋出漁船の増加に伴い、冷凍黄肌鮪の輸出の規正が唱えられ、冷凍鮪輸出水産業組合では、対米向、対欧向け輸出冷凍鮪に、出漁船の航海制限或は、輸出枠をもうけて制限を計り、対米、対伊向け黄肌鮪の価格安定と永続性を計った。

大西洋黄金海方面の黄肌鮪はブルーミートが多いと云う理由で大クレームがつき、対米中継輸出に大支障を来たしたが、それにより、かえって対欧輸出が伸び、新しい欧洲の市場が求められた。

一方9月29日に日米マグロ会談が東京で開催される事になり、議題内容は、(1)マグロの生物学的、生態学的および海洋学的研究並びに資源分布に関する研究、(2)マグロの漁獲及び漁獲技術の現状、(3)マグロの利用方法及び加工技術の現状、(4)日米両国の国内市場、マグロ製品の生産消費及び価格に関する過去の動向等に付き、両国政府並びに民間代表により真剣に討議された。　此等に関してもこの研究会の資料は重要な役割を為したのであります。鮪漁業は今や国際的漁業にまで発展致しましたが、それに応じて、科学的な資料の整備が最も必要と痛感する次第であります。終りに臨み皆々様の御発展を祈ると共に、本会への御支援を重々御願い致します。

賀　正

事代漁業株式会社

取締役社長　寺　本　正　市

本社　神奈川県三浦市三崎町花暮147
電話三浦2136番(代表)

米国大使館附属水産業務担当官

W・G・ヴァンキャンペン

鮪漁業研究会々員の皆様，新年お目出度う御座います．

小官が初めて日本の鮪漁船に乗って鮪延繩操業の実況を見学致しましたのがおよそ9年前に前代の相模丸がカロリン群島で調査を行なった時でした．其の後ハワイの水産研究所にそして最近アメリカ大使館に勤めながら日本の鮪漁業を興味深く研究して其の目覚ましい発展振りに感心して参りました．戦後自由操業が可能になりましてからその発展が誠に驚く可きものです．

日本の漁師の負けない精神と優れた技術，日本の鮪漁船主の意欲的経営振りに依って印度洋及び大西洋に新しい漁場が開拓され優秀な大型漁船が能率を益々高くして世界の海洋の到る処に其の繩を入れています．そればかりでなく近年には直接に冷凍鮪を輸出する事を覚えまして新しい海外市場の開拓にも成功しました．

日本の鮪漁業の斯様な見事な発展に鮪漁業研究会の事業が重要な貢献をなしたことを認めなければなりません

日本が世界最大の鮪漁業を営む国でありまして米国が漁業上その次ぎであると同時に世界一の鮪消費国であるので両国の鮪漁業の間に切っても切れぬ関係があります．魚価の不安定，資源に関する知

謹賀新年

柳下漁業株式会社

社長　柳下弥三郎

神奈川県三浦市三崎町花暮136

電話三浦2403・2525番

繩の不足，過当競争の生ずる諸弊害，第三国の進出等が両国の漁業者の同じく関心を持つところであると思います.

10月に東京で開かれた日米鮪会議が日本とアメリカの鮪漁業が直面している諸問題に就て友好にそして率直に意見と知識を交換する機会を与えました．新しい昭和35年にも同じ精神で進んで戴き度いと思います.

年頭にあたりまして鮪漁業研究会の皆様に新春の御挨拶を申上げると同時に貴会の非常に有意義な仕事が今後も益々盛に行われる様に祈ります.

（カツト　ヴアンキヤンペン氏筆跡）

新　年　に　よ　せ　て

神奈川県水産試験場長　永　井　三　夫

鮪漁業研究会をつくってから早や六年になる．まだ大西洋漁場も印度洋漁場も発見されない時代だった．そのころこの研究に協力してくれた鮪漁船は数隻だったと思うが，このごろの資料の充実を見ると感慨にたえない．そしてこの会が益々発展して行くことはよろこばしい限りである.

先日アメリカのカルホルニア漁業研究所の人が来て研究会の鮪に関する研究が進んでいるのに驚いていた．しかし又其の研究費の少ないのにも驚いていた．日本に来たら神風タクシーだとか殺人電車だとか驚ろくことばかりだと云っていた．我々は毎日々々の生活がそうだからマンネリズムで不感症になっているのだろう．しかし人に云われて見れば私達の仕事（鮪の研究）ももっともっと考えなければならない点があるだろう．会員の方々にも単に会に協力する丈でなく進んで研究に参加してもらいたいと思う.

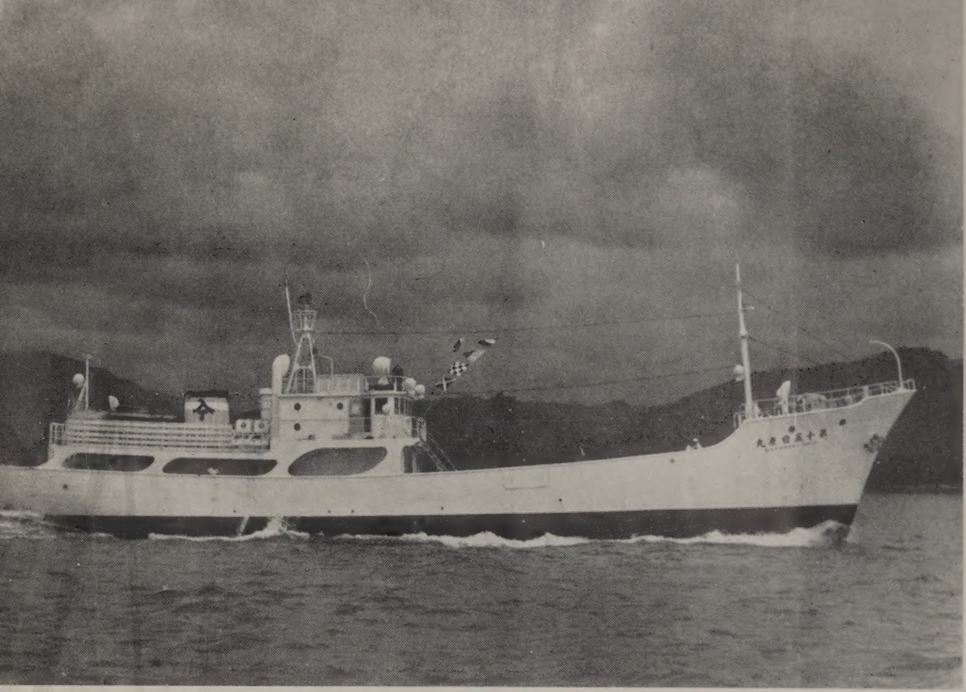
近頃合理化と云う言葉が流行している．今日の産業は合理化と云う目標に進まなければ産業そのものが成立しなくなる．要はオートメーション化であり最少の人員で最大の効率を揚げることだろう．鮪漁業ももう全世界の漁場を開拓し尽し漁獲量も一定化して来た．今後この事業で伸びて行くためにはやはり漁業の合理化の必要があろう．昔から鮪延縄漁業は重労働で低賃金だから外国人には絶対に真似は出来ないだろうと云われて来たし現在でもよく聞く言葉である．しかしすでに欧米諸外国は鮪延縄漁業に着手しはじめた事実は何人も否定出来ない．これは彼等にも出来る様に合理化されたからだろう．この鮪延縄漁業も合理化がうまく行かないと将来のことが思いやられる．会員諸兄は如何にすれば合理化出来るか漁具漁法経営等について御意見があれば本誌を通じて発表して戴きたい.

賀　正

極洋捕鯨株式会社

取締役社長　法華津　孝　太

東京都千代田区丸の内２丁目20番地１　電話（28局）4621―5（代表）



第15　日　康　丸

賀　正

船主	金成徳治（磐城市江名）
造船所	株式会社　金指造船所
主要寸法	長35.76m×幅6.80m×深3.35m
総屯数	239.24屯
魚艙容積	221.00m³
燃料油艙	123.80m₃
速力	最大　11.39節
主機	デーゼル 500HP（鐘ヶ淵デーゼル）1基
補機	デーゼル80HP．64HP（ヤンマー）各1基
無線	200W，80W（神戸工業）各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 6″×6″（中須製作所）2基
レーダー．ローラン（光電）方探（光電），魚探（海上電機）其の他各1式	
竣工	昭和33年8月8日

東レイのナイロ

強靱纖維興

東京都中央区日本橋芳町2の2
工場　埼玉県久喜町久喜新1300

クレモナ延縄・

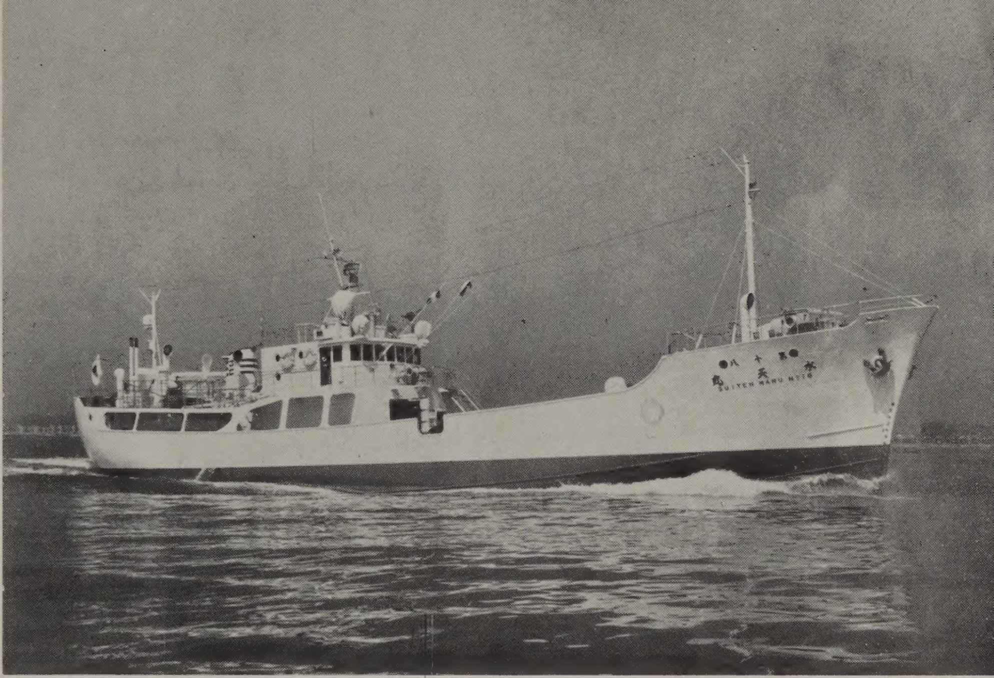
東京製綱

東京都中央区日本橋
電話東京（211）

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場	清水市三保4010—19	電話　清水(2) 4111～5
塚間工場	清水市三保弁天492	電話　清水(2) 5151～2
東京事務所	東京都港区芝田村町3ノ4	電話 芝(59)1306～8
三崎出張所	三浦市三崎町西野34	電話（三浦）2851



元　旦　—1960—　　第 18 水 天 丸

船主	吉田光雄（焼津市）
造船所	株式会社 三保造船所
主要寸法	長38.00m×幅7.10m×深3.45m
総屯数	259.68屯
魚艙容積	285.12m^3
燃料油艙	131.19m^3
速力	最大 11.87節
主機	デーゼル550HP 過給式（柳原鉄工） 1基
補機	デーゼル80HP（ヤンマー） 2基
無線	150W, 80W（服部電機） 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 5″×4½″, 5″×4″ アンモニヤ直膨式 40HP, 30HP 各1基
レーダー, ローラン（光電）, 音測（産研）	操舵機（川崎ヘルショウ型）其の他 各1式
竣工	昭和34年8月20日

ン・テトロン枝縄

業株式会社

電話茅場町(66)2596・4038番
電話（久喜）50・134番

テトロン延縄

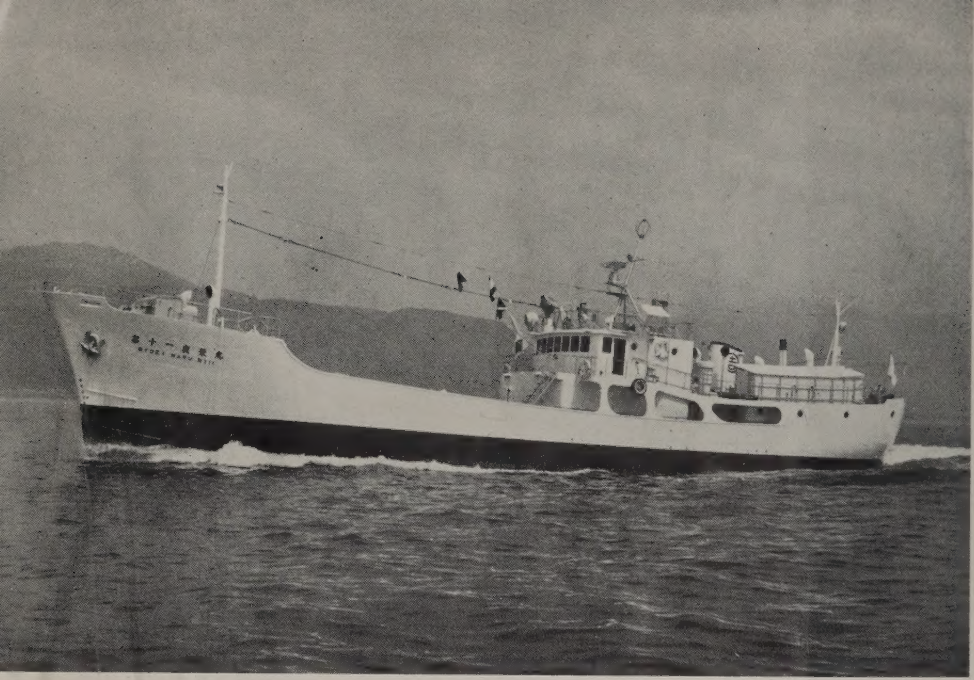
株式会社

室町2の8（古河ビル）
2851・2861番（代表）

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社 三保造船所

本社 静岡県清水市三保3797 電話清水(2)代表2201番
東京事務所 東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705 電話 千代田（27）5522.6775.9761番



第11　良　栄　丸　　**賀　正**

船　　主	釣井堅一郎　他二（室戸市）
造船所	株式会社　三保造船所
主要寸法	長36.44m×幅7.10m×深3.45m
総屯数	251.79屯
魚艙容積	248.45m³
燃料油艙	131.19m³
速　　力	最大　12.10節
主　　機	デーゼル550HP過給式（阪神内燃機）1基
補　　機	デーゼル 75HP（ヤンマー）　2基
無　　線	250W，75W（日本無線）　各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式 5″×4½″　40HP　2基
レーダー，方探（光電）、音測（産研） 操舵機（川崎ヘルショウ型）其の他	各1式
竣　　工	昭和34年8月27日

ハ　ン　シ　ン　デ　ィ　ー　ゼ　ル

船舶用・発電用・動力用65～4500HP

阪神内燃機工

取締役社長　　小

本社工場　神戸市長田区一

東京支社　東京都千代田区

下関出張所　下関市豊前田町

船用・主機・補機・ディーゼル・

50馬力～

株式会社　伊

取締役会長　　山

本社工場　清水市静開139

東京事務所　東京都丸の内岸

大阪事務所　大阪市北区大ビ

代理店　住友商

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　　社	大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）	TEL. 北浜（23）9736（代表）
東京支店	東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）	TEL. 銀座（57）7607（代表）
室戸出張所	高知県室戸市室津	TEL. 室戸　352
清水出張所	清水市三保本村四区	TEL. 清水（2）3507
三崎出張所	神奈川県三浦市三崎町西野34	TEL. 三浦　2751
石巻出張所	宮城県石巻市門脇町104	TEL. 石巻　505

施工船名

- 第12順光丸
- 第18水天丸
- 第18良栄丸
- 第1明神丸
- 第36住吉丸
- 第5秋津丸
- （其の他約七百隻）

元　旦 —1960—　　勇　喜　丸

阪神三菱横浜—可変ピッチプロペラ
製　造・販　売

業株式会社

曽　根　真　造

番町3丁目　電話(5)1531−6
丸ノ内丸ビル電話(20)3640−1
第一ビル　電話下関768

エンジン並にスーパーブロワー
3500馬力

藤　鉄　工　所

本　善　雄

電話(2)2141−5
本ビル　電話28 8151−3
ル　電話44 3550

事株式会社

船　主　田　中　謹　一（焼津市）
造船所　株式会社　金指造船所

主要寸法	長36.70m×幅7.10m×深3.40m	
総屯数	239.52屯	
魚艙容積	250.46m³	
燃料油艙	121.01m³	
速力	最大　11.76節	
主機	デーゼル650HP（赤坂鉄工）	1基
補機	デーゼル 80HP（ヤンマー）	2基
無線	150W，75W（日本無線）	各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式　5″・4″，5″・4½″　30HP 中須	各1基
レーダー，ローラン，魚探（産研）M.C.P.其の他		各1式
竣工	昭和34年10月12日	

各種漁船用デイーゼル機関は定評ある
50馬力〜5000馬力

株式会社　# 赤　阪　鉄　工　所

本　社	東京都中央区銀座一ノ三（千成[illegible]ビル）	電話京橋（56）4902〜3
北海道出張所	札幌市北四条西六丁目（北洋ビル）	電　話（3）4507
大阪出張所	大阪市東区北浜四ノ三八	電話北浜（23）4790
工　場	静岡県焼津市中港町五九四	電話（焼津）2121〜5

第12　順　光　丸

賀　正

船主	順光漁業株式会社（三浦市）
造船所	株式会社　金指造船所
主要寸法	長44.10m×幅7.80m×深3.90m
総屯数	332.36屯
魚艙容積	440.97m³
燃料油艙	212.04m³
速力	最大　12.31節
主機	デーゼル900HP（赤阪鉄工）　1基
補機	デーゼル150HP（　〃　）　2基
無線	250W，75W（三崎無線）　各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式　7″×5½″　75HP　2基
レーダー，方探（光電），音測（海上電機） G. C. P. 其の他	各1式
竣工	昭和34年11月12日

漁船用中短波無線送受信装置
漁船用中短波無線電話装置
作製工事販売保守一式

合資会社　三崎無線電機工業所

本社・営業所　三浦市三崎町仲崎187　電話（三浦）3431番
電化部　三浦市三崎町仲崎167　電話（三浦）2543番
電工部　三浦市三崎町原3163　電話（三浦）2864番
工場　三浦市三崎町原660　電話（三浦）2960番

カツオ・マグロ1尾

H-D 型 音

製造・発売　海 上 電

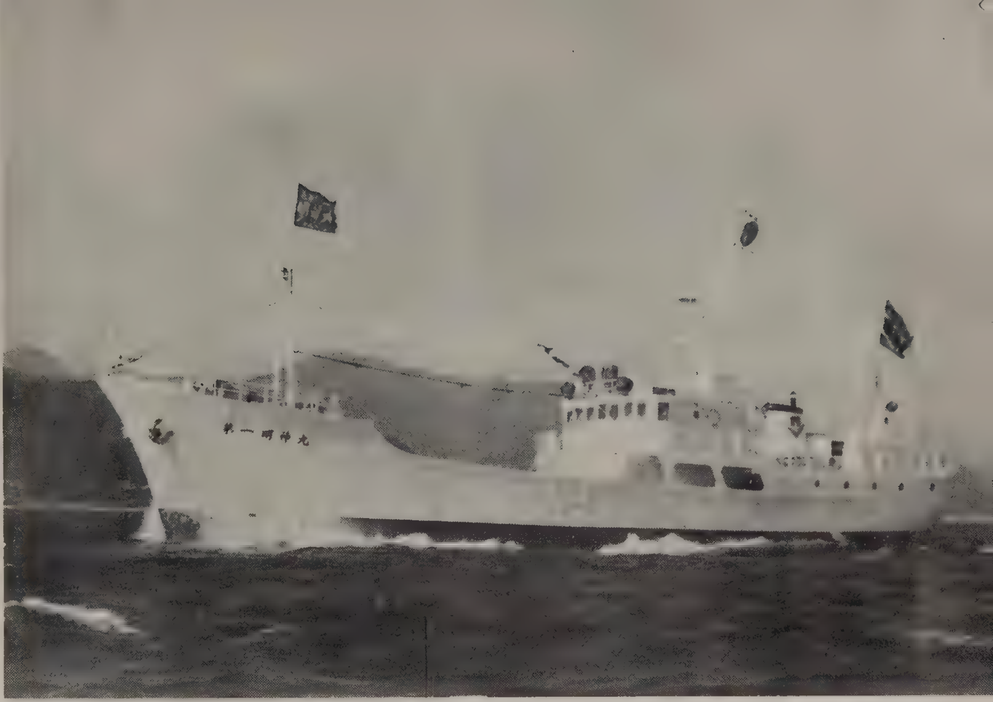
東京都千代田区神田錦町1—19

東 洋 棉 花

東京支社　食

東京都千代田区大手町1の2（東京貿

装備船名
第12順光丸
第28事代丸
第21全功丸
第18全功丸
第12福宝丸
第32大平丸
第1成洋丸
第1豊州丸
其の他



元　旦 —1960— 第1明神丸

1尾をキャッチする

響測深機

機株式会社

TEL. 東京(29) 2611～3, 8181～3

株 式 会 社

品　部

易会館）　電話東京(23)大代表 7211

船主	増田吉夫（焼津市）
造船所	株式会社　金指造船所
主要寸法	長36.70m×幅7.10m×深3.40m
総屯数	239.92屯
魚艙容積	257.24m^3
燃料油艙	134.43m^3
速力	最大　11.43節
主機	デーゼル550HP（赤阪鉄工）　1基
補機	デーゼル 80HP（ヤンマー）　2基
無線	150W, 75W（七洋無線）　各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式 5″×4″, 5″×4½″ 各1基
レーダー（安立），ローラン，魚探（産研）	M.C.P.其の他　各1式
竣工	昭和34年9月1日

主　要　営　業　品　目

商船・漁船用無線装置・陸上用無線装置・固定・移動用超短波電話装置・無線送受信機各種・通信用測定器各種・自動無線方位測定機

安立電氣株式會社

本　社　東京都港区麻布富士見町39　電話東京(473) 2131(代表)2141(代表)
神戸営業所　神戸市生田区栄町通5—19　電話元町(4) 3614（代表）
出張所　下関・戸畑・長崎・福岡・札幌

謹賀新年

東造船株式会社

取締役社長　平山清光

本社及工場　横須賀市本町3丁目　電話横須賀（代表）4780番
東京営業所　東京都港区芝新橋4丁目1番地（新橋ビル3階）
電話 銀座(57)代表 9201番

諸官庁船——遠洋漁船——御用

創業五十年
最良の品質　を誇る
最善のサービス

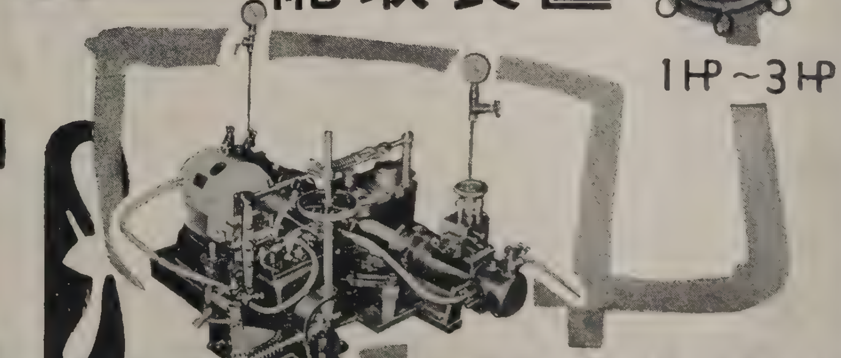
株式会社　安保商店

—電話三浦3216番—

（三崎港御入港の節は何卒御引立の程御願い致します）

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

1HP～3HP



其の他ディーゼル機関の排気利用による小型船用造水装置

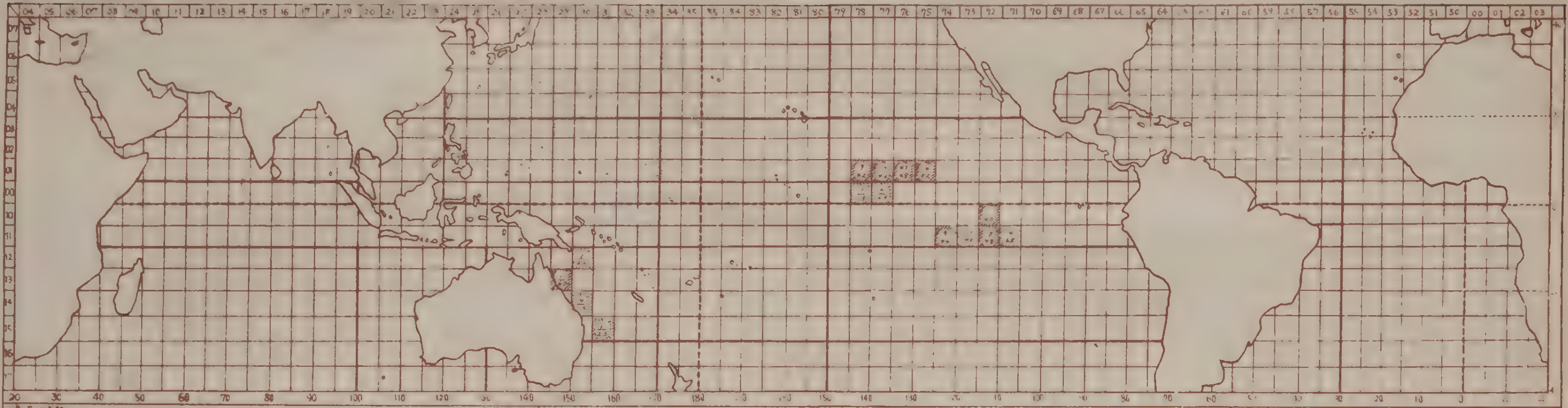
川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四（電）湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目（日比谷ビル）（電）(59)6101
（本紙名記入の上御一報下されはカタログ御送附致します）

マグロ漁況速報 1959年10月下旬

■は[illegible]以上、▨は[illegible]、□は[illegible]以下を示す

上段の数字は延操業回数　下段の数字は操業一回当り平均漁獲尾数を示す



(漁区の分類)

漁区	名称	範囲
[illegible]	[illegible]	N5°[illegible], E[illegible]° [illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]
中印	中印度洋	N5°-S10°, E[illegible]° [illegible]
[illegible]	[illegible]	S10°[illegible], E[illegible]° [illegible]
[illegible]	[illegible]	N5°[illegible], E[illegible]° [illegible]
[illegible]	西太平洋1	N20°[illegible], E120° E[illegible]
[illegible]	西太平洋2	N5° N20°, 〃
[illegible]	西太平洋3	N5°-S10°, 〃
[illegible]	[illegible]	S[illegible], E[illegible]-E[illegible]°

漁区	名称	範囲
西太4	西太平洋4	S[illegible]-S[illegible]°, E[illegible]° [illegible]
5	〃 5	S[illegible] [illegible]
中太1	中太平洋1	N20°[illegible], E[illegible] W150°
[illegible]	〃 2	N5°-N20°, 〃
3	〃 3	N5°-S10°, 〃
4	〃 4	S10°-S30°, 〃
[illegible]	〃 5	S30°以南 〃
東太	東太平洋1	N[illegible]°以北, W150°以東
2	〃 2	N5°-N20°, 〃

漁区	名称	範囲
東太2	東太平洋3	N5°-S[illegible]°, W150°以東
	〃 4	S[illegible]-S[illegible] 〃
[illegible]	〃 5	S30°以南, 〃
[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	〃 [illegible]	N[illegible]-S5
[illegible]	〃 [illegible]	S[illegible]以南, 〃
[illegible]	[illegible]	[illegible], W[illegible]以東
[illegible]	〃 [illegible]	[illegible]

(魚種組成)

漁区	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	雑
西太4	17.9	65.3			2.1	14.7			
〃	59.0		27.4		4.9	8.2			
〃	55.8	3.2	22.6				2.9	6.5	
〃	4.5	7.8	45.1				2.0		
東太2	6.4	6.7			13.9	0.2	1.2	0.9	0.3
東太3	25.0	5.6			19.4				
〃	24.2	45.0			15.3	3.6	8		
〃	40.7	50.8	0.1		4.4	0.2	3	2.6	
計	12.7	69.9			5.7	0.3	11.3	0.2	

(概況)

西太4　1329[illegible]は漁獲[illegible]で少な[illegible]。[illegible]の海区は[illegible]海区ごとに魚種組成が非常に異っている。(魚種組成表西太4イロハ＝参照)
1329は漁期の[illegible]が出現している他[illegible]の海区には[illegible]が多獲された。

東太2　[illegible]の盛漁期で上中旬と変らない。0178へ0175[illegible]を海区いずれも N6°～8°で全船が操業している。

東太3　0078は9月下旬漁獲[illegible]であったが激減して10月下旬は[illegible]になった。[illegible] 9月[illegible]操業[illegible]平均30尾程度[illegible]で変っていないが[illegible]は9月下旬20尾[illegible]月上中旬[illegible]尾[illegible]下旬[illegible]となった。
[illegible]を中心とする海区は[illegible]で[illegible]9月[illegible]魚種組成は25°N[illegible]で[illegible]

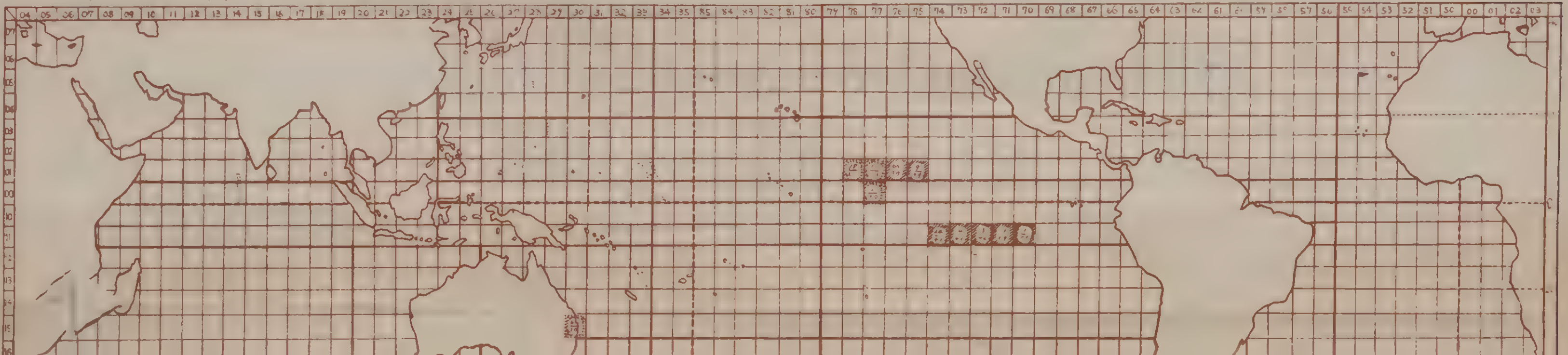
(注) 魚種組成表[illegible]

(註) [illegible]

マグロ漁況速報 1959年11月上旬

■は75尾以上、▨は[illegible]尾から[illegible]尾まで、□は[illegible]尾以下を示す

上段の数字は延操業回数　下段の数字は操業一回当り平均漁獲尾数を示す



(魚種組成)

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	イ ド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	雑
西太4	172	52	218			08	03	332	08	
東太2	00	770				137	02	14	06	04
東太3イ	158	475				297		40		
東太3ロ	116	723				58	03	96	04	

(概況)

西太4　1330海区附近はマカジキの盛漁期で　33.2%(魚種組成)　一回操業平均20尾釣れた。

東太2　0177海区ではシケ等により　18操業の中、1トン台の漁獲が8回もあったため　平均2.3トンと低下した。
隣接の 0178 0176 0175 も同様にやゝ低下しているが　メバチは今月も盛漁期であるから　次旬あたり再び上昇するであろう。

東太3イ　0077海区ではクロカワが約3割混っている。一回操業平均15尾。

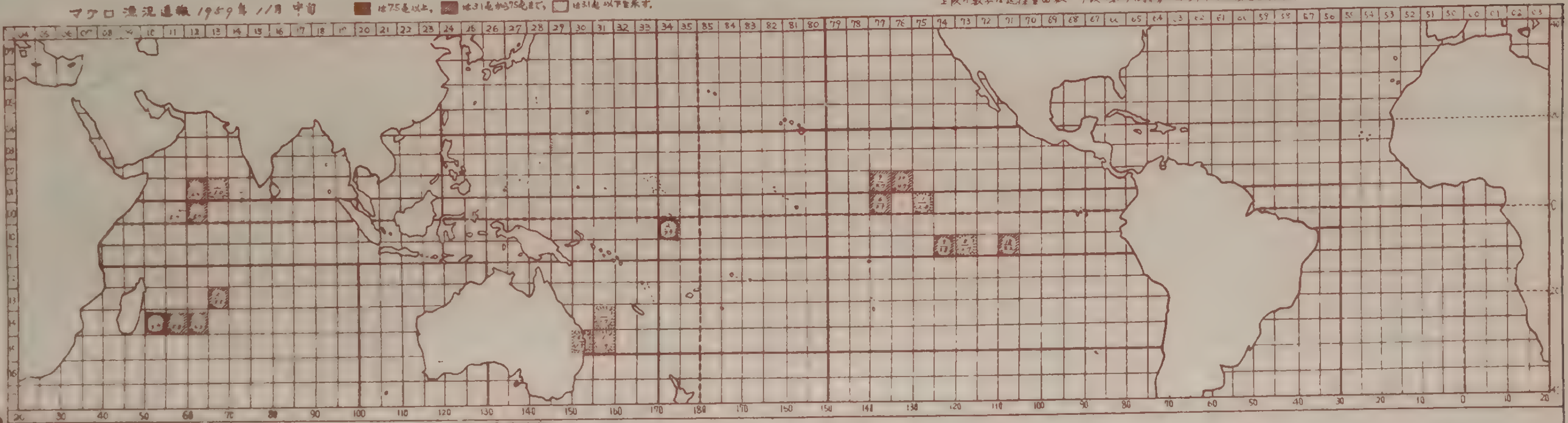
東太3ロ　この海区は漁獲4〜5トンで前月と変りない。

(漁場)　東太3イ：0077　東太3ロ：1174, 1173, 1172, 1171 1170

(註) [illegible]

マグロ漁況速報 1959年11月 中旬　■ は75尾以上、▨ は31尾から75尾まで、□ は31尾以下を示す。

上段の数字は延操業回数　下段の数字は操業一回当り平均漁獲尾数を示す



(区分・海域)

区分	名称	範囲	区分	名称	範囲	区分	名称	範囲
[illegible]	アラビア海	[illegible]	西太4	西太平洋4	[illegible]	[illegible]	東太平洋3	[illegible]
	ベンガル湾	[illegible]	〃5	〃 5	[illegible]		〃 4	[illegible]
中印	中印度洋	[illegible]	中太1	中部太平洋1	[illegible]		〃 5	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	〃2	〃 2	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	〃3	〃 3	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	〃4	〃 4	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	[illegible]	[illegible]	〃5	〃 5	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
〃3	[illegible]	[illegible]	東太1	東太平洋1	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	〃2	〃 2	[illegible]			

(魚種組成)

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	イ ド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	雑
アラ	635	326				07	07	21	04	
中印	65	261				37		37	07	
南印	78	01	949			05	02	03	01	01
西太4イ	208	42				42	83	417	208	
〃 ロ	387	117	185			24		234	52	
中太3	911	69				11				09
東太2	[illegible]	458				116	01	08	06	
東太3イ	[illegible]	400				19	02	04	14	
〃 ロ	147	061				75	02	108	06	

(概況)

この旬から電報の入った印度洋は 1°N〜1°S 60°〜70°E のキハダとマダガスカル東方のビンナガが共に好漁を示している。

西太4は 1431 のマカジキ以外は低率である。中太3は 1034 でキハダ小キハダが操業一回当り 250〜300尾獲れたが附近他漁の状況は不明である。東太2はメバチの好漁期で上旬シケのため一時低下した 0177 0176 は再び4トン台に上った。

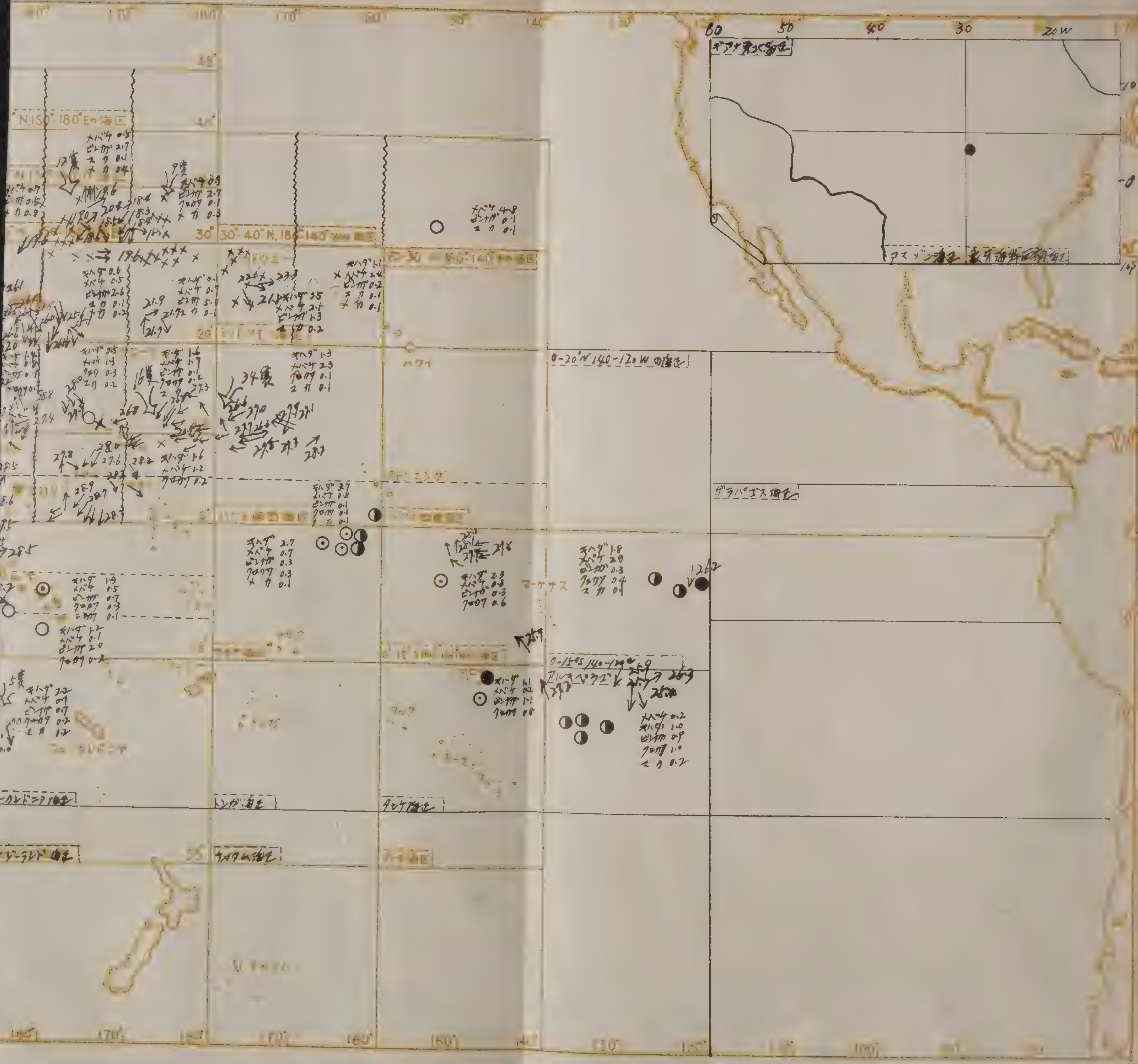
東太3ロもメバチの好漁期だが 1171 以外は低下した。この海区では 1171 のみマカジキが多く、魚種組成15%であった。

(漁場)　西太4イ　1431　西太4ロ　1340 1344　東太3イ　0077 0075　東太3ロ　1174, 1173, 1171

(註) [illegible]

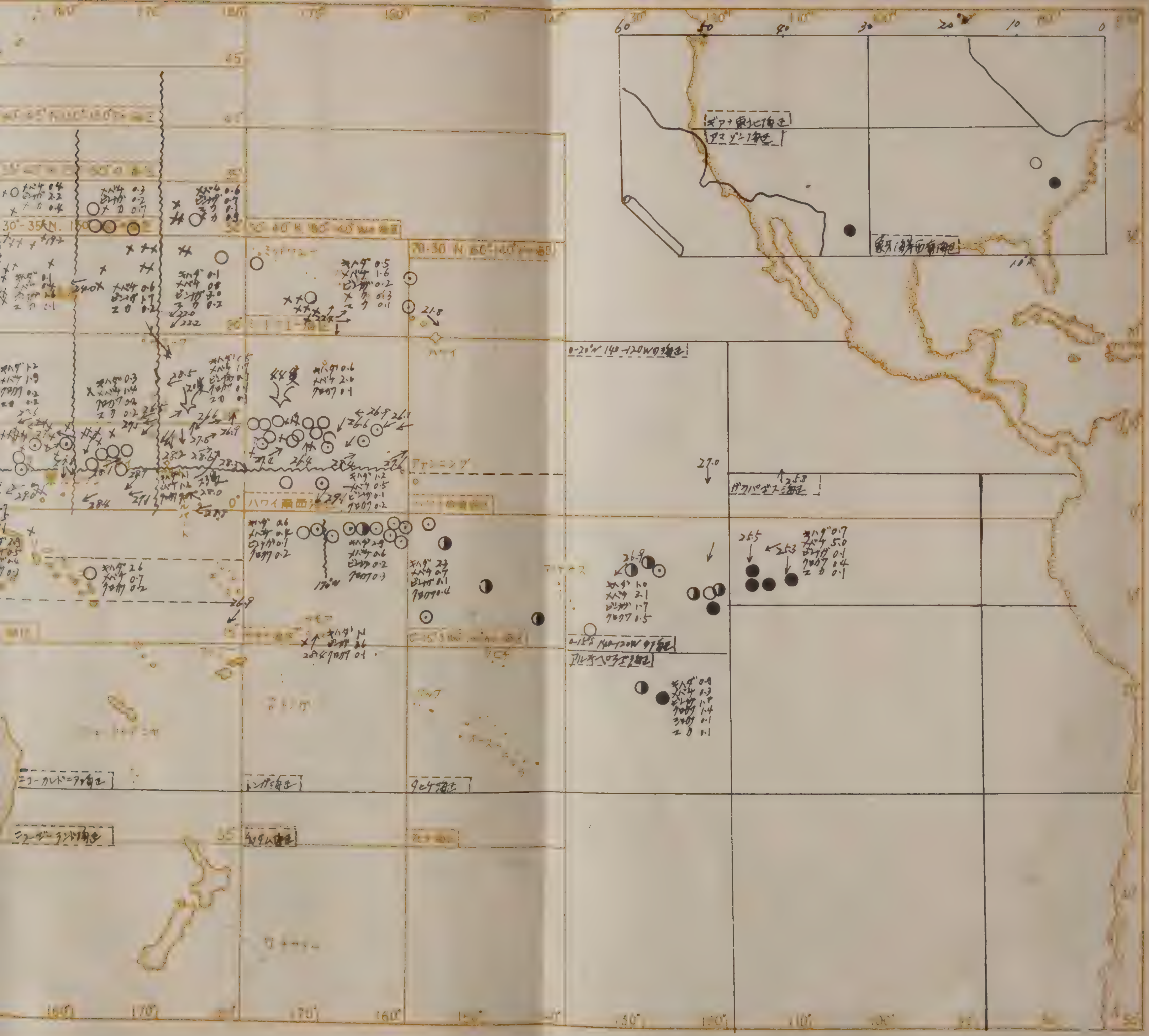
神奈川県水産試験場

鮪漁場図
(1959年 1月操業)
例
100-200 ton
100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率 = 漁獲尾数 / 釣数 × 100
← 表面海流
数字 表面水温
セレベス海



N.150°-180°Eの海区
30°-40°N, 180°-140°
ハワイ
メバチ 4.8
ビンナガ 0.1
マカ 0.1
0-20°N 140-120W の海区
ガラパゴス海区
マーケサス
ニューカレドニア海区
トンガ海区
タヒチ海区
ニュージーランド海区
ギアナ東方海区
アマゾン海区

鮪漁場図
1959年2月操業
400 ton以上
300－400 ton
200－300 ton
100－200 ton
× 100 ton以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数/釣数×100
← 表面海流
数字 表面水温



ミッドウェー
20-30°N 160-140°W の海区
ハワイ
ハワイ南西海区
アメニング
ガラパゴス海区
0-20°N 140-120W の海区
ギアナ東北海区
アマゾン海区
ニューカレドニア海区
トンガ海区
タヒチ海区
ニュージーランド海区

1959年1,2月に於けるマグロ漁場の漁況と海況の概要

（委託調査船767隻の資料に依る）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in Jan. and Feb. 1959

(By the data collected from the 767 appointed boats)

1．操業船の分布

1959年1，2月は，1958年12月に比較し，伊豆諸島東方海域と，マーシャルから160°Wまでの10°N線の水帯の操業船が著しく増加，クリスマス南方と濠洲スチーブ岬西方の操業船が若干増加し，また，12月にモーリシアス周辺に分布していた操業船は1月にはチャゴス東南の18°S線に移動し，2月には，0～10°Sの水帯の操業船が減少してラカデイブ西方の操業船が急激に増加した．

2．海　　況

漁場図参照

3．漁　　況

A　西経北部漁場（20°N以北，180°以東）

この漁場のメバチは12月から好漁期に入り，1月は，ミッドウエー及びハワイ列島周辺が2.1，ハワイ北方の32°N周辺が4.8．2月には1月より稍低下して，ミッドウエー東南方で1.6となっている．ビンナガは昨年と同様，西端のミッドウエー周辺でのみ漁獲され，1月が3.5，2月が2.5を示している．

B　西経中部漁場（5～20°N，180°以東）

この漁場はメバチが主対象魚種で約75%*を占めるのであるが，今年の1月はキハダが非常に高率で，釣獲率は昨年の0.4が今年は1.2，魚種組成は昨年の10%弱が今年は30%となっている．2月は低下して昨年と同率になり0.6を示している．（* 魚種組成は漁獲尾数の割合）

これに対し，メバチは逆に昨年より著しく低下し，ハワイ南西海区5°N以北において昨年3.6を示した1月には2.3，昨年3.3を示した2月には2.0となっている．なお，これは不漁年であった1951年から丁度3年目に当る．

C　西経南部漁場（5°N以南，190°以東）

西経中部漁場のキハダが好漁であったように，ハワイ南西海区5°N以南のキハダも，1月には著しく高率で，昨年の1.2が今年は3.7となっている．また，西経中部漁場と同様2月には低下し，昨年の1.6よりむしろ低く，1.2となっている．

サモア海区北方は，1，2月共ほぼ同率，また昨年とも同率で，1月2.7，2月2.9，0～15°S，160～140°Wの海区も1，2月共同率であるが，昨年より低く，2.7～2.9，140°W以東の5～10°Sの水帯は昨年，一昨年に比較して低く，特に2月は0.7～1.0となっている．

140°W以東のメバチは昨年，一昨年と同様高率であるが，2月に7～11°Sの水帯も高率である点は異なっている．

ビンナガは全般的にあまり高率ではないが，サモア周辺の2月は例年よりかなり高率で3.6を示している．

クロカワは好漁期に入り全般的に高率であるが，1月より2月の方が高く，また，アルキペラゴ海区は1，2月も12月と同様特に高率で，昨年と同傾向である．

D　東経北部漁場（20°N以北，180°以西）

メバチは，30°～40°N，150～180°Eの海区が低下期，東北，伊豆東方，南海，西部太平洋150°E以東の諸海区は好漁期であるが，釣獲率は，西部太平洋150°E以西の海区以外はほぼ同率で，0.5～0.7を示している．

ビンナガは，最盛期であるが，1月は160°E以東，2月は南海海区と西部太平洋150°E以西が高率で，1月は東偏，2月に西偏しているが，西部太平洋170°E以東の海区のみは2月も高率である．なお昨年は好漁であったが，

今年はかなり落ちている．メカジキは，東北，伊豆東方，30～35°N， 150°～180°E の諸海区が好漁期であり高率である．

E　東経中部漁場（5～20°N，180°以西）

この海区はメバチ漁場であるが，今年はキハダの秋季の好漁期がおくれたため，1月は低下期に当り，キハダも比較的高率であり，メバチとほぼ同率である．メバチは好漁期に当り，高率が続いている．

F　東経南部漁場（5°N以南，130～180°E）

カロリン諸島南側のキハダは，昨年の11月には好漁年としては低率で，不漁年よりわずかに高い程度であった．今年の1，2月はこの漁期の末期に当るが，低下現象は激しくなく，例年とほぼ同率，ソロモン海区0～10°Sの水帯は，昨年11月の好漁期に著しく低率であったため，低下途上の1月は極めて低率であるが，2月は1月より著しく高くなり，3.0近くに達している．

ソロモン海区10～15°Sのキハダも同様，好漁期にもかかわらず10月以降2.0程度の釣獲率が続き，例年に比較してかなり低い．ニューカレドニア海区は例年とほぼ同傾向で，1月は昨年の1月よりむしろ高率である．

ビンナガは不漁期に当り全般的に低率であるが，例年には多少高率となる 15～22°S の水帯も，他水帯より高率（1.3）ではあるが，かなり低率である．

G　東部印度洋漁場（90°E以東）

バンダ，フロレス海区は2月にキハダとシロカワが高率になっているが，このキハダはハルマヘラ，セラム両島間でのみ特別に漁獲されたものであり，シロカワはニューギニアとセラム，アル両島に囲まれた海域でのみ特別に漁獲されたものである．

東部印度洋のキハダは好漁期に入ったが，1，2月共西よりで8～10°S，東よりで 10～12°S の水帯及びジャワ南方16°S周辺のみが2.0～2.5を示し，他海域は全般的に低率である．

メバチは，ココス島北島北方 10°S 以北のみで漁獲されているが，夏季の好漁期からの低下途上にあるのであまり高くなく，また，1月1.4，2月1.1と順次低下している．

ビンナガは，105°E以東が不漁期に当るので，ココス島周辺のみ高率で，1月に4.7，2月に3.9となっている．

インドマグロは，引き続き好漁期であるが，20°S以南のオーストラリア沖合は，20°S以北に比較して著しく高率であり，また，20°S 以北，以南の両海域共，拡散している1月より，再び密集した2月の方がかなり高率となっている．

H　中，西部印度洋漁場（90°E以西）

中，西部印度洋海区0～10°Sの水帯のキハダは好漁期に入っているが，チャゴス島北東海域の2月の釣獲率は2.0で低く，チャゴス島南方海域の方が5.1で高い。セーシエル諸島周辺は1．2月共高率であるが，2月より1月の方が遥に高い．

ベンガル湾のキハダも好漁期に入ったが，この漁場のキハダは1955年以後年々低下しているので，本年2月の釣獲率もあまり高くない．しかし，今年から漁獲が持ち直したようで，昨年よりは高く 3.4 を示している．アラビア海区は1955，56年が高率，1957，58年が低率であったが，1959年は，1955，56年程高くはないが再び高くなっているので，好漁期前期ではあるが比較的高い．

ベンガル湾及びアラビア海のメバチは好漁期に入り，1，2月共釣獲率が高い．

アラビア海5°N以北のクロカワは，12月共高率で1955年と同傾向となっている．

10～15°Sのビンナガは，10°S以北に比べて遥に高率であるが，不漁期に当るのでこの海域としては低い．また，15°S以南は以北に比較して著しく高く，15°S付近に明瞭な分布の境がみられる．

ベンガル湾のマカジキは，好漁期初期であるが，昨年よりかなり高く 0.9 を示している．

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま きはだ	めばち
0—15S 140—120W	5—9S 126—120W	3	2	25.4 26.6		50	20163	95352	1710 1.79	2788 2.92
アルキペラゴ	20—25S 140—129W	4	4	23.8 27.7		131	53701	228104	2194 0.96	345 0.15
30—40N 180—140W	31—32N 153—152W	1	1	17.7 19.0		12	4680	18720	3 0.01	892 4.76
ミッドウエー	23—30N 179—163W	11	3	18.5 23.5		114	37996	174633	871 0.50	3574 2.05
ハワイ南西 (5°N以北)	6—12N 180—164W	34	22	26.0 28.6		500	179701	808613	10126 1.25	18489 2.29
ハワイ南西 (5°N以南)	1—2N 161—159W	1	1	28.0 28.7		9	3560	17800	665 3.74	136 0.76
0—15S 160—140W	4—6S 153—151W	1	1	27.5 28.1		10	4000	16000	373 2.33	129 0.81
タヒチ	15—21S 151—143W	2	2	25.6 27.2		22	9345	35693	374 1.05	81 0.23
サモア	0—3S 170—159W	5	4	27.4 9.7		65	26376	123910	3393 2.74	854 0.69
東北	35—36N 145—149E	3	0	16.7 19.6		31	4902	28624		198 0.69
30—35N 150—180E	29—36N 149—175E	31	13	15.7 22.4		393	16130	600411	132 0.02	4497 0.75
伊豆東方	30—36N 140—151E	48	12	16.5 21.1		580	102938	601900	195 0.03	3306 0.55
南海	29—32N 136—139E	2	0	18.7 20.2		28	4970	31080	79 0.25	146 0.47
西部太平洋 (170°E以東)	28—31N 169—180E	9	5	18.4 21.4		87	26895	141674	138 0.10	1005 0.71
西部太平洋 (170°E以西)	21—34N 136—171E	52	15	17.4 27.7		683	159073	954908	5837 0.61	3243 0.34
南洋北部 (170°E以東)	9—13N 170—180E	15	8	26.2 28.7		170	62334	295457	4749 1.61	5155 1.74
南洋北部 (170°E以西)	9—16N 151—171E	7	3	26.2 28.1		65	21992	120568	1234 1.02	1223 1.01
南洋南部 (170°E以東)	5—11N 169—179E	6	1	26.4 28.8		44	16471	76727	1232 1.61	885 1.15
南洋南部 (170°E以西)	0—11N 130—171E	67	29	20.6 29.8		901	307278	1351164	24094 1.78	20392 1.51
ソロモン	0—15S 148—163E	8	1	27.1 29.5		80	30212	140222	2194 1.56	397 0.28
ニューカレドニア	15—25S 150—156E	5	4	26.0 29.2		88	33212	153881	3322 2.16	117 0.08
バンダフロレス	5—6S 124—126E	1	0	28.6 29.2		3	951	4755	15 0.32	10 0.21

（1959年1月 操 業 分）

（別表 1 ）

AL B7 (手書き)			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
299			346	21	80	34	12	623	294	416	6623	
0.31			0.36	0.02	0.08	0.04	0.01	0.65	0.31	0.44	6.95	
4278			2695	27	492	39	4		83		10157	
1.88			1.18	0.01	0.22	0.02	0.00		0.04			
19					10	5					929	
0.10					0.05	0.03						
2180			5	1	284	43		181	278	39	7456	
1.25			0.00	0.00	0.16	0.02		0.10	0.16	0.02	4.27	
260			1062	35	417	85	116	483	1936	334	33343	
0.03			0.13	0.00	0.05	0.01	0.01	0.06	0.24	0.04	4.12	
18			24	7	1	13					864	
0.10			0.13	0.04	0.01	0.07						
45			89	3	4	4	3				650	
0.28			0.56	0.02	0.03	0.03	0.02					
374			295	9	9	4	4		17		1167	
1.05			0.83	0.03	0.03	0.01	0.01		0.05			
106			409	24	9	58	44	23	231	203	5354	
0.09			0.33	0.02	0.01	0.05	0.04	0.02	0.19	0.16	4.32	
247					7	144			4	106	706	
0.86					0.02	0.50			0.01	0.37	2.47	
11093	158		6		224	3028	1	210	397	2975	22721	
1.85	0.03		0.00		0.04	0.50	0.00	0.03	0.07	0.50	3.78	
6019	11		2		55	3663	1	148	402	7657	21459	
1.00	0.00		0.00		0.01	0.61	0.00	0.02	0.07	1.27	3.57	
1275			2		12	5		5		76	1600	
4.10			0.01		0.04	0.02		0.02		0.24		
7025	10		3		172	105		128	16	358	8960	
4.96	0.01		0.00		0.12	0.07		0.09	0.01	0.25	6.32	
17311	3		62	8	1595	780	8	2298	1663	3141	35949	
1.81	0.00		0.01	0.00	0.17	0.08	0.00	0.24	0.17	0.33	3.76	
191			535	55	178	20	63	199	925	205	12275	
0.06			0.18	0.02	0.06	0.01	0.02	0.07	0.31	0.07	4.15	
83			296	2	154	4	14	3	128	65	3206	
0.07			0.25	0.00	0.13	0.00	0.01	0.00	0.11	0.05	2.66	
24			150	6	14	11	98	3	150	6	2579	
0.03			0.20	0.01	0.02	0.01	0.13	0.00	0.20	0.01	3.36	
160			2767	86	438	104	863	483	1318	923	51628	
0.01			0.20	0.01	0.03	0.01	0.06	0.04	0.10	0.07	3.82	
2103			349	65	5	13	531		46	70	5773	
1.50			0.25	0.05	0.00	0.01	0.38		0.03	0.05	4.12	
1110			371	145	298	46	47		547	98	6101	
0.72			0.24	0.09	0.19	0.03	0.03		0.36	0.06	3.96	
			2	5			3				35	
			0.04	0.11			0.06					

小スンダ チモール	8— 14S 115—129E	7	0	28.5 30.3		96	36065	161699	1763 1.09	905 0.56
スマトラ 西岸	8— 10S 97—101E	3	0	27.5 29.3		51	19913	97771	2223 2.27	1354 1.38
濠洲西方	9— 26S 89—115E	18	4	21.9 28.8		195	76979	379855	3160 0.83	723 0.19
中部印度洋	5— 18S 69— 90E	11	3	26.1 29.7		176	70839	368607	3944 1.07	836 0.23
アラビア	8— 10N 68— 70E	1	1	27.9 28.5		10	4450	17800	684 3.84	435 2.44
西部印度洋	8— 21S 54— 69E	6	1	26.0 30.1		111	46175	223916	4386 1.96	236 0.11
象牙海岸 西南	4— 5N 31— 29W	1	0	27.5 28.0		5	2000	10000	508 5.08	
ア[illegible]ン	5— 8S 34— 31W	2	0	26.6 28.8		23	7785	37433	153 0.41	
ギアーナ 東北	6— 8N 40— 38W	1	0	27.4 27.6		7	2800	14000	957 6.84	
合計	31	366	140			4740	1393886	7331277	80708	72351

賀　　春　　　　1960年元旦

NAKASU（ナカス）船用冷凍機

漁船用冷蔵装置

株式会社　中須製作所

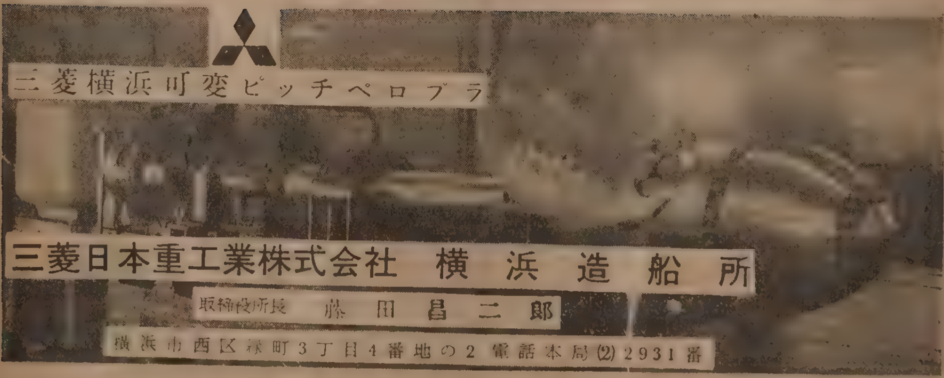
本社　東京都千代田區丸ノ内三菱仲14號館3號　電話丸ノ内(28) 8730~5

工場　東京都大田區原町177番地　電話蒲田(73) 3922・3923・3295

284 0.18		3029 1.87	167 0.10	265 0.16	33 0.02	67 0.04	6 0.00	1 0.00	11 0.01		6531 4.04
993 1.02		97 0.10	154 0.16	83 0.08	37 0.04	21 0.02	42 0.04	167 0.17	53 0.05		5224 5.34
9907 2.61		14241 3.75	533 0.14	444 0.12	273 0.07	71 0.02	52 0.01	13 0.00	703 0.19	39 0.01	30159 7.94
17613 4.78			1565 0.42	288 0.08	116 0.03	78 0.02	120 0.03	29 0.01	495 0.13	189 0.05	25273 6.86
			219 1.23	7 0.04	50 0.28	4 0.02	117 0.66		17 0.10		1533
10097 4.51			1323 0.59	144 0.06	78 0.03	55 0.02	90 0.04		110 0.05	238 0.11	16757 7.48
199 1.99						1 0.01					708
4622 12.35			27 0.07			2 0.01					4804
64 0.46											1021
97999	182	17367	13458	1730	5045	8507	2158	4997	9824	17138	331 545

賀　春

1960年元旦



月別、漁場別、鮪類体長組成表（1959年1月操業分）

（別表 2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50 cm 以下	51 —60	61 —70	71 —80	81 —90	91 — 100	101 — 110	111 — 120	121 — 130	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 cm 以上		計	漁獲尾数
	1	0— 15S 140—120W	6— 8S 123—120W	23										1 2.7	14 37.8	13 35.1	9 24.3			37 100	959
	4	アルキペラゴ	20— 25S 140—129W	131						1 0.3	13 3.3	26 6.5	9 2.3	11 2.8	57 14.3	205 51.3	77 19.3	1 0.3		400 100	2194
	2	ミッドウエー	25— 29N 176—163W	33			3 1.0	20 6.6	15 4.9	5 1.6	13 4.3	39 12.8	99 32.6	68 22.4	23 7.6	8 2.6	9 3.0	2 0.7		304 100	447
き	19	ハワイ南西 (5°N 以北)	6— 12N 180—164W	353	5 0.2	6 0.3	17 0.7	40 1.8	119 5.2	131 5.8	159 7.0	611 26.8	876 38.5	265 11.6	40 1.8	6 0.3	3 0.1			2278 100	7741
	2	サモア	0— 3S 163—159W	36						17 2.1	148 18.1	210 25.7	176 21.5	201 24.6	63 7.7	1 0.1	1 0.1			817 100	1983
	4	30— 35N 150—180E	29— 35N 150—169E	38				6 16.7	5 13.9	5 13.9		6 16.7	2 5.6	1 2.8	9 25.0	1 2.8		1 2.8		36 100	29
	6	伊豆東方	30— 35N 140—149E	74				8 18.2	27 61.4	1 2.3	1 2.3	3 6.8	3 6.8		1 2.3					44 100	68
	3	西部太平洋 (170°E以東)	28— 31N 169—177E	48			1 1.3	20 25.3	19 24.1	9 11.4	3 3.8	11 13.9	10 12.7	3 3.8	1 1.3	2 2.5				79 100	93
は	9	西部太平洋 (170°E以西)	21— 34N 143—171E	143			5 0.8	77 13.1	280 47.5	29 4.9	15 2.5	48 8.1	89 15.1	30 5.1	9 1.5	3 0.5	3 0.5	1 0.2		589 100	1328
	6	南洋北部 (170°E以東)	10— 12N 170—180E	81				2 0.4	29 5.2	28 5.0	34 6.1	175 31.3	215 38.4	69 12.3	8 1.4					560 100	2239
	3	南洋北部 (170°E以西)	9— 15N 151—169E	39				2 1.1	14 7.6	13 7.1	10 5.4	50 27.2	75 40.8	17 9.2	2 1.1		1 0.5			184 100	648
	1	南洋南部 (170°E以東)	9— 11N 178—179E	11				2 1.2	7 4.1	11 6.5	17 10.0	55 32.4	53 31.2	23 13.5	1 0.6	1 0.6				170 100	469
だ	21	南洋南部 (170°E以西)	0— 11N 134—171E	370		4 0.2	13 0.6	51 2.3	161 7.4	177 8.1	193 8.8	621 28.5	784 35.9	151 6.9	15 0.7	7 0.3	5 0.2	1 0.1		2183 100	10294
	1	ソロモン	6— 14S 154—158E	17						3 1.8	13 7.6	39 22.8	49 28.7	47 27.5	17 9.9	2 1.2	1 0.6			171 100	526
	2	ニューカレドニヤ	15— 24S 150—156E	43					1 0.3	8 2.5	5 1.6	26 8.2	78 24.5	106 33.3	81 25.5	12 3.8	1 0.3			318 100	2148

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計		漁獲尾数
	3	濠洲西方	19—26S 101—115E	45			1 0.3	2 0.7	5 1.7	9 3.0	10 3.3		37 12.2	59 19.5	127 41.9	48 15.8	4 1.3	1 0.3		303 100	700
	2	中部印度洋	15—17S 72—82E	37							1 1.7		10 17.2	15 25.9	26 44.8	6 10.3				58 100	1333
	1	0—15S 140—120W	6—8S 123—120W	23					2 0.8	10 4.2	2 0.8	4 1.7	17 7.2	11 4.6	63 26.6	53 22.4	41 17.3	34 14.3	237 100		1519
	4	アルキペラゴ	20—25S 140—129W	131						3 3.5	5 5.9	6 7.1	19 22.4	13 15.3	19 22.4	7 8.2	10 11.8	3 3.5	85 100		345
	1	30—40N 180—140W	31—32N 153—152W	12				1 0.6	46 26.1	13 7.4	24 13.6	28 15.9	9 5.1	37 21.0	7 4.0	5 2.8	5 2.8	1 0.6	176 100		892
	2	ミッドウェー	25—29N 176—163W	33	12 2.1	13 2.3	27 4.8	37 6.6	127 22.7	29 5.2	20 3.6	27 4.8	20 3.6	106 18.9	80 14.3	23 4.1	36 6.4	3 0.5	560 100		1151
め	19	ハワイ南西 (5°N以北)	6—12N 180—164W	342	2 0.1	4 0.1	7 0.2	8 0.3	81 2.8	315 10.9	374 12.9	524 18.1	543 18.8	485 16.8	419 14.5	77 2.7	33 1.1	22 0.8	2894 100		13280
	3	サモア	0—3S 165—159W	49				3 0.9	19 5.6	34 10.0	57 16.8	78 22.9	74 21.8	35 10.3	22 6.5	12 3.5	4 1.2	2 0.6	340 100		674
	9	30—35N 150—180E	31—36N 149—175E	122	7 0.4	8 1.4	20 3.5	44 7.6	142 24.5	42 7.3	114 19.7	26 4.5	28 4.8	57 9.8	41 7.1	29 5.0	24 4.2		579 100		1413
	11	伊豆東方	30—35N 140—149E	124		1 0.3	6 1.7	10 2.8	114 32.4	26 7.4	92 26.1	39 11.1	21 6.0	33 9.4	5 1.4	1 0.3	3 0.9	1 0.3	352 100		659
	3	西部太平洋 (170°E以東)	28—31N 170—180E	48		5 2.2	20 8.8	35 15.4	38 16.7	5 2.2	11 4.8	9 4.0	13 5.7	38 16.7	17 7.5	21 9.3	13 5.7	2 0.9	227 100		541
	10	西部太平洋 (170°E以西)	21—34N 143—171E	151	2 0.5	45 10.9	19 4.6	25 6.1	56 13.6	30 7.3	47 11.4	26 6.3	75 18.2	33 8.0	26 6.3	19 4.6	7 1.7	2 0.5	412 100		966
ば	7	南洋北部 (170°E以東)	10—12N 170—180E	90				2 0.2	10 1.1	65 7.4	117 13.2	188 21.3	274 31.0	131 14.8	82 9.3	8 0.9	4 0.5	3 0.3	884 100		2802
	3	南洋北部 (170°E以西)	9—15N 151—169E	39				2 0.7	6 2.2	18 6.7	32 11.9	50 18.5	102 37.8	40 14.8	17 6.3	1 0.4		2 0.7	270 100		680
	25	南洋南部 (170°E以西)	0—11N 134—171E	403	3 0.1	13 0.6	7 0.3	28 1.3	199 9.4	194 9.1	336 15.8	369 17.4	607 28.6	240 11.3	98 4.6	17 0.8	7 0.3	5 0.2	2123 100		9238
	1	ソロモン	6—14S 154—158E	17					2 13.3	4 26.7	3 20.0	4 26.7		2 13.3					15 100		37

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	120 cm 以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm 以上	計	漁獲尾数
ち	1	ニューカレドニア	15—17S 150—154E	15						5 13.2	12 31.6	10 26.3	8 21.1	2 5.3	1 2.6				38 100	24
	3	濠洲西方	19—26S 101—115E	43			2 3.0		2 3.0	6 9.0	5 7.5	1 1.5	26 38.8	16 23.9	7 10.4	2 3.0			67 100	64
	1	中部印度洋	16—17S 72—76E	19								3 20.0	5 33.3	3 20.0	2 13.3	2 13.3			15 100	18
	1	アラビア	8—10N 68—70E	10						2 10.5		3 15.8	5 26.3	3 15.8	5 26.3	1 5.3			19 100	435

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	120 cm 以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm 以上	計	漁獲尾数
いんど鮪	4	濠洲西方	19—26S 101—115E	55	1 0.1	9 1.3	202 28.3	307 42.9	149 20.8	44 6.2	3 0.4								715 100	4390

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	40 cm 以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161 cm 以上	計	漁獲尾数
びんなが	1	アルキペラゴ	21—23S 140—133W	35							38 47.5	42 52.5							80 100	604
	1	30—40N 180—140W	31—32N 153—152W	12						7 41.2	6 35.3	2 11.8	1 5.9	1 5.9					17 100	19
	2	ミッドウェー	25—29N 177—163W	21						1 1.3	17 22.7	48 64.0	9 12.0						75 100	103
	11	ハワイ南西 (5°N 以北)	8—12N 180—170W	176							21 23.3	50 55.6	19 21.1						90 100	116
	8	30—35N 150—180E	29—36N 149—175E	112			24 2.9	149 18.0	233 28.2	245 29.6	91 11.0	75 9.1	8 1.0	2 0.2					827 100	2064
	7	伊豆東方	30—35N 140—150E	80			6 0.9	163 24.4	349 52.3	83 12.4	7 1.0	24 3.6	34 5.1	1 0.1					667 100	888
	5	西部太平洋 (170°E以東)	28—31N 169—180E	70			3 0.3	51 5.0	110 10.8	416 40.8	345 33.8	90 8.8	5 0.5						1020 100	4962
	10	西部太平洋 (170°E以西)	21—34N 143—171E	144			4 0.3	20 1.5	62 4.7	541 40.6	343 25.8	258 19.4	102 7.7	2 0.2					1332 100	5215
	4	南洋北部 (170°E以東)	10—12N 173—180E	58							18 25.0	44 61.1	10 13.9						72 100	69
	1	南洋北部 (170°E以西)	10—12N 164—169E	17						1 16.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7						6 100	5

	1	南洋南部 (170°E以東)	9—11N 178—179E	11							2 11.1	12 66.7	4 22.2						18 100	14
が	3	南洋南部 (170°E以西)	3—9N 144—163E	41							3 17.6	10 58.8	4 23.5						17 100	18
	1	ニユー カレドニア	15—17S 150—154E	15						6 14.6	30 73.2	5 12.2							41 100	320
	2	濠洲西方	19—25S 103—115E	25					1 0.8	16 13.3	72 60.0	30 25.0	1 0.8						120 100	693

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251cm以上	計	漁獲尾数
	1	0—15S 140 120W	6—8S 123—120W	23			1 2.4		3 7.1	6 14.3	10 23.8	6 14.3	4 9.5	5 11.9	1 2.4	5 11.9		1 2.4	42 100	148
	4	アルキヘラゴ	20—25S 140—129W	131	3 0.4		4 0.5	16 1.9	103 12.4	203 24.5	215 26.0	106 12.8	24 2.9	25 3.0	29 3.5	36 4.3	26 3.1	38 4.6	828 100	2695
く	1	ミッドウエー	26—29N 164—163W	19									1 50.0	1 50.0					2 100	2
	15	ハワイ南西 (5°N以北)	6—12N 180—164W	288	24 4.9	63 12.8	88 17.9	85 17.3	117 23.8	29 5.9	17 3.5	13 2.6	18 3.7	10 2.0	10 2.0	5 1.0	7 1.4	6 1.2	492 100	682
	1	タヒチ	15—19S 151—147W	13	4 3.3	3 2.5	7 5.7	13 10.7	21 17.3	19 15.6	17 13.9	9 7.4	4 3.3	5 4.1	6 4.9	2 1.6	5 4.1	7 5.7	122 100	172
	1	サモア	0—3S 163—159W	22	10 12.5	10 12.5	8 10.0	10 12.5	13 16.3	4 5.0	4 5.0	2 2.5	5 5.0	7 2.5	5 6.3	1 1.3		1 1.3	80 100	149
ろ	1	35—35N 150—180E	33—34N 149—152E	22												1 100			1 100	1
	1	西部太平洋 (170°E以東)	28—29N 169—174E	12											1 100				1 100	1
	5	西部太平洋 (170°E以西)	21—30N 147—167E	71	2 25.0		1 12.5		1 12.5	1 12.5			1 12.5	1 12.5				1 12.5	8 100	11
	4	南洋北部 (170°E以東)	10—12N 170—180E	58	5 3.4	18 12.2	35 23.8	37 25.2	27 18.4	11 7.5	4 2.7	5 3.4	1 0.7	2 1.4		2 1.4			147 100	175
か	3	南洋北部 (170°E以西)	9—15N 151—169E	39	1 0.9	16 15.0	29 27.1	19 17.8	21 19.6	3 2.8	3 2.8	5 4.7	4 3.7	1 0.9	2 1.9	2 1.9		1 0.9	107 100	194
	20	南洋南部 (170°E以西)	0—11N 134—171E	366	27 4.9	99 18.0	177 32.2	82 14.9	79 14.4	11 2.0	12 2.2	12 2.2	17 3.1	13 2.4	5 0.9	7 1.3	4 0.7	5 0.9	550 100	1169

わ	1	ソロモン	6—14S 154—158E	17	3 4.5	6 9.0	11 16.4	18 26.9	13 19.4	3 4.5	3 4.5	1 1.5	2 3.0	4 6.0	1 1.5		2 3.0		67 100	35
	4	ニューカレドニア	15—25S 150—156E	76	5 2.8	12 6.6	25 13.8	18 9.9	26 14.4	14 7.7	9 5.0	15 8.3	22 12.2	11 6.1	7 3.9	9 5.0	3 1.7	5 2.8	181 100	350
	3	濠洲西方	19—25S 101—115E	45				1 4.5	1 4.5	1 4.5	3 13.6	1 4.5	6 27.3	1 4.5	2 9.1	3 13.6	2 9.1	1 4.5	22 100	55
	3	中部印度洋	15—17S 72—90E	54		1 0.6	1 0.6	14 8.1	33 19.1	47 27.2	29 16.8	8 4.6	9 5.2	10 5.8	7 4.0	8 4.6	2 1.2	4 2.3	173 100	463

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251cm以上	計	漁獲尾数
し	2	0—15S 140—120W	6—9S 124—120W	37				1 16.7					1 16.7	2 33.3	1 16.7			1 16.7	6 100	18
	4	アルキヘラゴ	20—25S 140—129W	131				3 12.5	2 8.3		3 12.5	2 8.3	1 4.2	3 12.5			2 8.3	8 33.3	24 100	27
	9	ハワイ南西 (5°N以北)	6—12N 180—	179			1 4.2	1 4.2	3 12.5	4 16.7	2 8.3			1 4.2	2 8.3	2 8.3		8 33.3	24 100	22
	1	ハワイ南西 (5°N以南)	1—2N 161—159W	9				3 18.8	4 25.0	4 25.0		1 6.3			1 6.3			3 18.8	16 100	7
ろ	1	タヒチ	18—21S 149—143W	9					2 33.3	2 33.3								2 33.3	6 100	5
	2	サモア	0—3S 170—159W	32		1 5.9	1 5.9	3 17.6	2 11.8	1 5.9	2 11.8			1 5.9				6 35.3	17 100	12
か	2	西部太平洋 (170°E以西)	21—24N 149—163E	37				1 50.0			1 50.0								2 100	
	1	南洋北部 (170°E以東)	10—12N 179—180E	14			1 50.0			1 50.0									2 100	2
	2	南洋北部 (170°E以西)	10—12N 156—169E	29			1 33.3		1 33.3		1 33.3								3 100	2
	17	南洋南部 (170°E以西)	0—10N 141—171E	298			4 10.3	9 23.1	4 10.3	8 20.5	2 5.1	3 7.7	2 5.1	2 5.1	1 2.6			4 10.3	39 100	40
わ	1	ソロモン	6—14S 154—158E	17			2 10.5	2 10.5	1 5.3	4 21.1	1 5.3		2 10.5	1 5.3	1 5.3	1 5.3		4 21.1	19 100	9
	3	ニューカレドニア	15—24S 150—156E	58	2 3.9	1 2.0	4 7.8	3 5.9	3 5.9	4 7.8	12 23.5	2 3.9	3 5.9	4 1.8	2 3.9	1 2.0	2 3.9	8 15.7	51 100	107

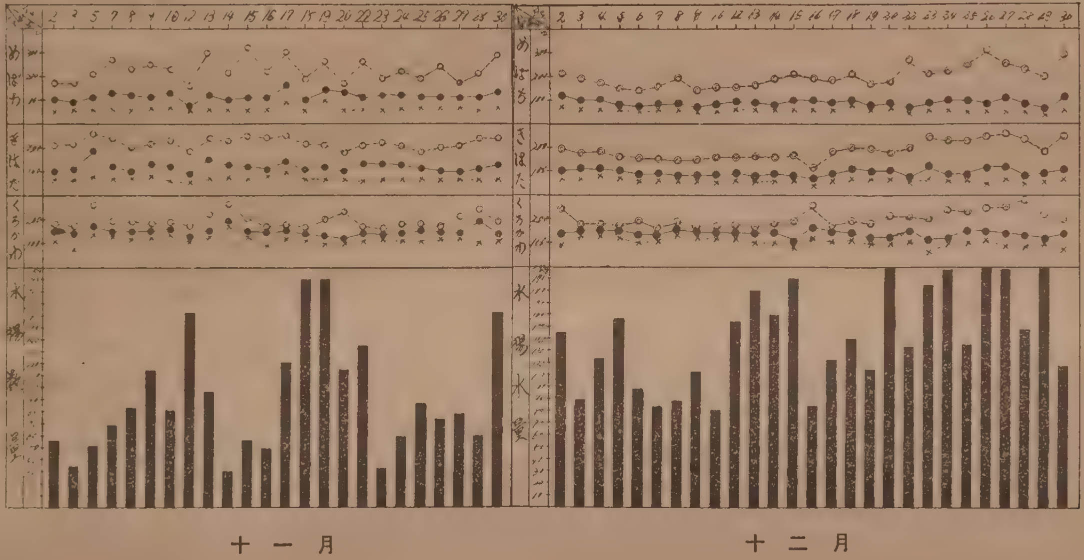
魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221 cm以上	計	漁獲尾数
	3	濠洲西方	19—26S 101—115E	45	2 2.3	4 4.7	11 12.8	8 9.3	2 2.3	5 5.8	3 3.5	6 7.0	12 14.0	13 15.1	10 11.6	8 9.3	1 1.2	1 1.2	86 100	114
	2	中部印度洋	15—17S 72—82E	37			1 9.1		2 9.1	1 4.5	2 9.1	3 13.6	5 22.7	3 13.6		4 18.2		1 4.5	22 100	69
ま	2	0—15S 140—120W	6—9S 124—120W	37			1 4.8	2 9.5	8 38.1	4 19.1	2 9.5	4 19.1							21 100	58
	4	アルキペラゴ	20—25S 140—129W	131			3 1.4	9 4.3	11 5.3	33 15.8	38 18.2	64 30.6	36 17.2	10 4.8	3 1.4	2 1.0			209 100	492
	1	35—40N 180—140W	31—32N 153—152W	12					2 25.0	6 75.0									8 100	10
	1	ミッドウエー	26—29N 164—163W	19				12 48.0	12 48.0	1 4.0									25 100	25
	13	ハワイ南西 (5°N以北)	7—12N 180—164W	235	32 13.7	41 17.5	48 20.5	39 16.7	41 17.5	23 9.8	9 3.8		1 0.4						234 100	235
	1	サモア	0—30S 163—159W	22			1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3								7 100	7
か	2	30—35N 150—180E	29—34N 149—169E	30						5 55.6	2 22.2		1 11.1		1 11.1				9 100	8
	1	伊豆東方	31—33N 142—147E	13				1 20.0		3 60.0		1 20.0							5 100	5
	2	西部太平洋 (170°E以東)	28—30N 169—180E	24			1 2.2	5 10.9	20 43.5	16 34.8	3 6.5	1 2.2							46 100	29
じ	8	西部太平洋 (170°E以西)	21—34N 147—171E	121	8 2.9	24 8.7	78 28.2	73 26.4	71 25.6	19 6.9	4 1.4								277 100	300
	6	南洋北部 (170°E以東)	10—12N 174—180E	73	7 8.9	5 6.3	11 13.9	13 16.5	21 26.6	11 13.9	2 2.5	2 2.5	1 1.3	6 7.6					79 100	72
	2	南洋北部 (170°E以西)	10—12N 156—169E	29	1 1.9	4 7.7		4 7.7	13 25.0	20 38.5	9 17.3	1 1.9							52 100	72
	17	南洋南部 (170°E以西)	0—11N 141—171E	294	4 2.2	3 1.6	28 15.2	50 27.2	46 25.0	20 10.9	3 2.2		10 5.4	10 5.4	6 3.3	4 1.6			184 100	243
き	1	ニューカレドニア	20—24S 154—156E	28			1 3.4		1 3.4	4 13.8	4 13.8	12 41.4	6 20.7	1 3.4					29 100	93

	4	濠洲西方	19—25S 101—115E	55			3 3.7	23 28.4	40 49.4	10 12.3	2 2.5	2 2.5							1 1.2	81 100	144
	2	中部印度洋	15—17S 72—82E	37			1 2.8	2 5.6	7 19.4	18 50.0	5 13.9	3 8.3								36 100	36

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201cm以上	計	漁獲尾数
め	3	アルキペラゴ	20—24S 140—129W	97											1 5.3	1 5.3	1 5.3	16 84.2	19 100	27
	1	30—40N 180—140W	31—32N 153—152W	12					3 50.0					1 16.7	1 16.7			1 16.7	6 100	5
	2	ミッドウェー	25—29N 176—163W	33	6 20.7		5 17.2	4 13.8	7 24.1	4 13.8	1 3.4				1 3.4			1 3.4	29 100	25
	14	ハワイ南西(5°N以北)	6—12N 180—164W	265	14 22.6	2 3.2				1 1.6	2 3.2	4 6.5	4 6.5	1 1.6	1 1.6	7 11.3	6 9.7	20 32.3	62 100	54
	1	0—15S 160—140W	4—6N 153—151W	10								2 50.0	2 50.0						4 100	4
	2	サモア	0—3S 163—159W	36						4 4.7	15 17.7	7 8.2	16 18.8	12 14.1	7 8.2	8 9.4	8 9.4	8 9.4	85 100	40
か	8	30—35N 150—180E	30—36N 149—175E	116	1 0.2	2 0.5	24 5.6	22 5.2	38 8.9	46 10.8	22 5.2	3 0.7	15 3.5	25 5.9	50 11.7	67 15.7	35 8.2	76 17.8	426 100	1036
	10	伊豆東方	30—35N 140—149E	113	2 0.5	6 1.4	20 4.6	41 9.4	54 12.3	59 13.5	11 2.5	10 2.3	43 9.8	16 3.7	37 8.4	49 11.2	40 9.1	50 11.4	438 100	749
	1	西部太平洋(170°E以東)	29—31N 171—173E	20					2 20.0	2 20.0	1 10.0			2 20.0			2 20.0	1 10.0	10 100	18
	9	西部太平洋(170°E以西)	21—34N 142—171E	137	4 1.4	3 1.1	24 8.5	20 7.1	33 11.7	46 16.3	7 2.5	4 1.4	13 4.6	8 2.8	23 8.1	27 9.5	24 8.5	47 16.6	283 100	465
じ	3	南洋北部(170°E以東)	10—12N 174—179E	44			1 33.3									1 33.3		1 33.3	3 100	3
	1	南洋北部(170°E以西)	9—15N 151—156E	10									1 50.0		1 50.0				2 100	2
	12	南洋南部(170°E以西)	0—11N 134—171E	225	4 9.8					2 4.9	3 7.3	3 7.3	8 19.5		3 7.3	2 4.9	6 14.6	10 24.4	41 100	42
	1	ソロモン	6—14S 154—158E	17												2 100			2 100	1

き	3	ニューカレドニア	15—24S 150—156E	58						1 5.9	1 5.9		3 17.6		1 5.9	3 17.6	2 11.8	6 35.3		1 0	
	1	濠洲西方	19—25S 103—115E	13													3 10.0			3 100	5
	2	中部印度洋	5—17S 72—90E	36							1 9.1		2 18.2	1 9.1		2 18.2	3 27.3	2 18.2		11 100	12

鮪類水揚価格表（三崎）
昭和三十四年十一月、十二月



月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま きはだ	めばち
ガラパゴス	5— 8S 120—110W	4	1	25.3 26.7		51	20381	101905	713 0.70	5041 4.95
0— 15S 140—120W	5— 15S 140—119W	7	6	26.0 28.9		160	25746	284295	2807 0.99	8818 3.10
アルキペラゴ	15— 25S 135—127W	2	1	24.5 28.5		52	21930	87720	763 0.87	219 0.25
ミッドウエー	22— 28N 180—159W	12	6	18.2 23.7		200	62444	296710	1359 0.46	4641 1.56
ハワイ南西 (5°N以北)	5— 13N 180—159W	53	32	26.4 28.9		966	239711	1599801	9968 0.62	31751 1.98
ハワイ南西 (5°N以南)	0— 5N 177—167W	3	0	27.2 29.0		17	6745	31640	368 1.16	155 0.49
0— 15S 160—140W	0— 15S 162—141W	6	4	26.8 28.9		88	35525	160355	3728 2.32	1077 0.67
サモア	0— 15S 174—160W	12	4	27.2 29.3		153	60138	279803	7599 2.72	1487 0.53
30— 35N 150E—180	29— 34N 149—175E	17	7	16.5 21.0		230	73579	366649	24 0.01	1465 0.40
東北海区	34— 38N 142—149E	3	2	11.8 18.8		24	5776	25574	1 0.00	111 0.43
伊豆東方	30— 35N 141—150E	50	18	17.1 21.0		629	123171	700074	566 0.08	2913 0.42
南海々区	29— 32N 137—141E	7	2	18.3 20.6		78	14540	94480	105 0.11	263 0.28
西部太平洋 (170°E以東)	27— 31N 169—180E	3	1	18.2 20.6		39	12285	70335	42 0.06	527 0.75
西部太平洋 (170°E以西)	20— 31N 132—152E	42	10	18.0 25.8		451	103987	141551	398 0.06	973 0.15
南洋北部 (170°E以東)	9— 12N 170—180E	19	10	25.8 28.9		228	85356	380956	2627 0.69	6712 1.76
南洋北部 (170°E以西)	9— 16N 132—171E	15	3	26.0 28.8		147	43422	207642	1645 0.79	3453 1.66
南洋南部 (170°E以東)	4— 11N 170—180E	24	13	25.0 28.7		267	91657	418732	4484 1.07	4944 1.18
南洋南部 (170°E以西)	0— 11N 129—168E	65	21	26.8 29.8		831	27548	1358129	19698 1.45	16984 1.25
ソロモン	0— 8S 136—163E	4	1	27.7 28.5		49	17362	79675	2243 2.82	423 0.53
バンダ フロレス	1— 9S 124—135E	5	0	27.2 30.7		45	15545	76615	1351 1.76	312 0.41
小スンダ チモール	11— 15S 116—120E	3	0	29.2 30.5		37	11650	57550	233 0.41	288 0.50
スマトラ 西岸	8— 11S 92—106E	3	1	27.0 29.8		41	15180	75900	1574 2.07	869 1.14

(1959年2月操業分)

(別表1)

びんなが	くろ鮪	いんど鮪	かじき くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう	かつお	雑	さめ	計	記事
146 0.14			366 0.36	14 0.01	58 0.06	17 0.02	11 0.01	100 0.10	61 0.06	265 0.26	6792 6.67	
4743 1.67			1320 0.46	36 0.01	72 0.03	31 0.01	8	375 0.13	158 0.06	107 0.04	18475 6.50	
1590 1.81			1189 1.36	64 0.07	58 0.07	16 0.02	7 0.01		9 0.01		3915 4.46	
528 0.18			29 0.01	7 0.00	819 0.28	33 0.00		1 0.00	25 0.01	93 0.03	7535 2.54	
305 0.02	5 0.00		1668 0.10	59 0.00	639 0.04	53 0.01	215 0.01	470 0.03	2357 0.15	1180 0.07	48770 3.05	
25 0.08			57 0.18	3 0.01	1 0.00	6 0.02	2 0.01		18 0.06		635 2.01	
207 0.13			647 0.40	32 0.02	11 0.01	47 0.03	52 0.03		267 0.17	131 0.08	6199 3.87	
744 0.27			831 0.30	39 0.01	12 0.00	79 0.03	104 0.04	21 0.01	531 0.19	240 0.09	11687 4.18	
4530 1.24	101 0.03		2 0.00		67 0.02	2253 0.61	1 0.00	40 0.01	242 0.07	2044 0.56	10769 2.94	
56 0.22	1 0.00				1 0.00	114 0.45			51 0.20	652 2.55	987 3.86	
6143 0.89	40 0.01				103 0.01	3722 0.53		112 0.02	393 0.06	11402 1.63	25394 3.63	
5247 5.55	3 0.00				17 0.02	39 0.04		3 0.00	27 0.03	184 0.19	5888 6.23	
2132 3.03			1 0.00		107 0.15	30 0.04		95 0.14	7 0.01	21 0.03	2962 4.21	
29380 4.58	7 0.00		21 0.00		339 0.05	432 0.07	3 0.00	902 0.14	273 0.04	1395 0.22	34123 5.32	
241 0.06			551 0.14	8 0.00	286 0.08	23 0.01	124 0.03		592 0.16	295 0.08	11459 3.01	
17 0.01			381 0.18	3 0.00	285 0.14	19 0.01	37 0.02	40 0.02	292 0.14	383 0.18	6555 3.16	
94 0.02			1006 0.24	17 0.00	206 0.05	52 0.01	251 0.06	77 0.02	575 0.14	207 0.05	11913 2.85	
101 0.01			2024 1.15	99 0.01	892 0.07	163 0.01	724 0.05	118 0.01	1372 0.10	1295 0.10	43470 3.20	
44 0.06			127 0.16	37 0.05		8 0.01	457 0.57		237 0.30	83 0.10	3659 4.59	
			118 0.15	838 1.09	50 0.20	15 0.02	70 0.09	8 0.01	267 0.35	305 0.40	3434 4.48	
166 0.29		1551 2.70	38 0.07	109 0.19	3 0.01	12 0.02				3 0.01	2403 4.18	
148 0.20		429 0.57	105 0.14	80 0.11	16 0.02	9 0.01	16 0.02		29 0.04		3275 4.32	

濠洲西方	15—27S 91—115E	17	5	21.9 30.0		182	68224	331443	1276 0.38	159 0.05
セイロン	7—15N 69—86E	5	3	26.0 28.5		84	37843	151372	2858 1.89	1051 0.69
中部印度洋	0—17S 69—79E	3	0	28.0 30.5		28	12156	53076	1327 2.50	114 0.21
アラビア	3—13N 62—71E	10	4	27.5 29.0		143	59865	256818	9015 3.51	2748 1.07
西部印度洋	3—21S 50—70E	5	1	27.0 30.2		52	22122	107551	3152 2.93	101 0.09
アデン	7—8S 34—33W	1	0	27.2 27.7		11	4400	22000	188 0.85	
象牙海岸 西南	1N—3S 10W—0	1	0	27.1 28.4		16	5190	20760	3094 14.90	21 0.10
合計	29	401	156			5399	1323478	8339111	83206	97620

賀　正

1960年元日

『かなやま』の『さつま』に代る新漁具

鮪延縄用SKスリーブ及びプレッサー

本品は手軽に締めつけが出来て誰でも出来不出来がありません。その上製作に時間と労力を要せず強度も一定で革命的のものであります。東京水産大学練習船海鷹丸では夙に使用されていて実用上その耐久力強度については充分に立証されております。

須　田　製　作　所

営業所　東京都中央区銀座東6—4日交ビル　電話(54)3904—7
工　場　月島第一　月島第二，板　橋

4229 1.28		27008 8.15	185 0.06	254 0.08	153 0.05	80 0.02	4 0.0	16 0.01	7 0.0	4 0.0	33375 10.06
1 0.0			2511 1.66	123 0.08	575 0.38	36 0.02	520 0.34	1 0.0	143 0.09	369 0.24	8188 5.40
1528 2.88			193 0.36	27 0.05	30 0.06	8 0.02	114 0.21		75 0.14	113 0.21	3529 6.67
			2371 0.92	166 0.06	1425 0.55	57 0.02	729 0.28	18 0.01	231 0.09	382 0.15	17142 6.65
3460 3.22			441 0.41	89 0.08	265 0.25	16 0.02	96 0.09		171 0.16	268 0.25	8059 7.49
2591 11.78											2779 12.63
109 0.53			15 0.07			6 0.03					3245 15.63
68505	157	28988	16197	2104	6590	7476	3545	2397	8410	21421	346616

賀　正

1960年元旦

縄成りこ漁獲率の最も優れた…………

特許　海光延縄（ビニール被覆鉛心入）

更に改良を加え、優秀な製品を安価に製造販賣致しておりますから
宜しく御採用の程をお願い申上げます

株式会社　海光社水産研究所

代表者　林　　壽

本社　東京都新宿区神樂坂2の16　電話(33)2090
工場　愛知県寶飯郡形原町

月別、漁場別、鮪類体長組成表（1959年2月操業分）

（別 表 2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	ガラパゴス	7—8S 116—115W	9									1 2.1	6 12.5	14 29.2	18 37.5	5 10.4	4 8.3	48 100	160
	5	0—15S 140—120W	5—11S 133—119W	123						5 2.4	20 9.7	37 17.9	51 24.6	16 7.7	34 16.4	39 18.8	4 1.9	1 0.5	207 100	2313
	1	アルキペラゴ	16—25S 130—127W	32									2 5.9	5 14.7	5 14.7	17 50.0	5 14.7		34 100	458
	6	ミッドウェー	22—25N 176—159W	116				4 0.9	30 6.6	11 2.4	6 1.3	27 5.9	186 40.7	118 25.8	34 7.4	21 4.6	13 2.8	7 1.5	457 100	775
き	24	ハワイ南西 (5°N以北)	5—13N 180—159W	554		3 1.1	19 0.9	39 1.8	185 8.4	210 9.5	163 7.4	503 22.7	755 34.1	242 10.9	66 3.0	11 0.5	3 0.1	12 0.5	2211 100	5900
	4	0—15S 160—140W	1—15S 162—141W	73						24 3.4	92 13.0	215 30.4	141 19.9	139 19.6	77 10.9	17 2.4	1 0.1	2 0.3	708 100	3111
	3	サモア	0—3S 163—161W	49					1 0.3	11 2.8	48 12.4	114 29.5	78 20.2	101 26.2	32 8.3	1 0.3			386 100	2891
	2	30—35N 150—180E	29—34N 150—152E	18				1 33.3						1 33.3				1 33.3	3 100	3
	11	伊豆東方	29—35N 140—150E	167			1 0.6	40 24.0	67 40.1	16 9.6	4 2.4	11 6.6	15 9.0	7 4.2	3 1.8	1 0.6	2 1.2		167 100	177
は	1	南海々区	29—31N 138—141E	19				4 28.6	8 57.1	1 7.1	1 7.1								14 100	16
	11	西部太平洋 (170°E以西)	23—31N 139—170E	150				9 6.2	32 22.1	2 1.4	7 4.8	28 19.3	29 20.0	29 20.0	8 5.5	1 0.7			145 100	182
	9	南洋北部 (170°E以東)	9—11N 170—180E	167			1 0.2	4 0.6	30 4.5	74 11.1	42 6.3	152 22.9	256 38.6	84 12.7	17 2.6	3 0.5		1 0.2	664 100	2121
	2	南洋北部 (170°E以西)	9—16N 132—158E	31			2 1.1	14 8.0	42 23.9	7 4.0	1 0.6	10 5.7	52 29.5	40 22.7	6 3.4	2 1.1			176 100	233
	7	南洋南部 (170°E以東)	5—11N 170—179E	97		1 0.1	2 0.3	15 2.1	22 3.1	40 5.6	86 12.1	236 33.1	225 31.6	68 9.5	12 1.7	2 0.3	1 0.1	3 0.4	713 100	2200
だ	22	南洋南部 (170°E以西)	0—11N 141—170E	346		2 0.1	27 1.3	71 3.4	243 11.6	356 16.9	172 8.2	314 14.9	663 31.5	219 10.4	29 1.4	6 0.3			2102 100	3054

	1	ソロモン	4—8S 159—163E	13						25 24.5	15 14.7	17 16.7	38 37.3	7 6.9					102 100	644
	5	濠洲西方	15—26N 102—118E	56								3 2.1	21 14.9	50 35.5	59 41.8	6 4.3			141 100	758
	1	セイロン	8—13N 69—73E	33									11 20.7	26 49.1	16 30.2				53 100	1094
	3	アラビア	3—11N 62—69E	46							19 6.8	75 26.7	74 26.3	78 27.8	35 12.5				281 100	3361

魚種	測定点数	漁場	操業位置	操業回数	60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾数
	6	0—15S 140—120W	5—11S 133—119W	141				1 0.1	22 1.4	96 6.1	94 6.0	128 8.2	179 11.4	178 11.4	310 19.8	245 15.6	181 11.6	132 8.4	1566 100	8690
	6	ミッドウェー	22—25N 176—159W	116	1 0.1	4 0.4	5 0.5	7 0.7	26 2.7	10 1.0	32 3.3	95 9.8	101 10.4	303 31.3	277 28.6	71 7.3	29 3.0	7 0.7	968 100	2598
	30	ハワイ南西 (5°N以北)	5—13N 180—159W	647		3 0.1	6 0.1	15 0.3	116 2.4	566 11.9	586 12.3	713 15 0	731 15.4	876 18.4	853 18.0	165 3.5	100 2.1	18 0.4	4748 100	20819
め	3	0—15S 160—140W	1—15S 162—141W	61					7 2.0	41 11.8	49 14.2	56 16.2	56 16.2	58 16.8	41 11.8	24 6.9	11 3.2	3 0.9	346 100	684
	3	サモア	0—3S 168—161W	49					9 5.8	25 16.0	22 14.1	37 23.7	31 19.9	18 11.5	5 3.2	5 3.2	4 2.6		156 100	564
	6	30—35N 150—180E	29—34N 149—173E	87		1 0.3	3 0.8	17 4.4	127 33.0	36 9.4	84 21.8	39 10.1	23 6.0	26 6.8	16 4.2	4 1.0	9 2.3		385 100	616
	2	東北海区	34—36N 147—149E	19	4 4.9	5 6.2	6 7.4		3 3.7	10 12.3	12 14.8	14 17.3	9 11.1	14 17.3	4 4.9				81 100	111
	13	伊豆東方	29—34N 140—150E	204		2 0.4	5 1.1	12 2.6	181 39.7	40 8.8	93 20.4	64 14.0	25 5.5	20 4.4	9 2.0	4 0.9	1 0.2		456 100	990
	1	南海々区	29—31N 138—141E	19			3 6.1		19 38.8	2 4.1	7 14.3	3 6.1	7 14.3	7 14.3	1 2.0				49 100	55
	1	西部太平洋 (170°E以東)	28—29N 172—174E	10	2 2.9	3 4.3	7 10.0	10 14.3	16 22.9	2 2.9	3 4.3		3 4.3	10 14.3	7 10.0	5 7.1	1 1.4	1 1.4	70 100	106
ば	11	西部太平洋 (170°E以西)	23—31N 139—170E	171	2 0.5	8 1.9	27 6.3	17 4.0	84 16.7	10 2.3	29 6.8	28 6.8	77 18.1	83 19.5	43 10.1	10 2.3	8 1.9		426 100	819
	9	南洋北部 (170°E以東)	9—12N 170—180E	167		1 0.1	3 0.2	7 0.5	48 3.5	207 15.0	235 17.0	310 22.4	291 21.0	184 13.3	75 5.4	15 1.1	6 0.4	1 0.1	1383 100	5078

ち	2	南洋北部(170°E以西)	9—16N 132—158E	31			2 0.8	2 0.8	7 3.0	34 14.3	30 12.7	42 17.7	67 28.3	33 13.9	15 6.3	4 1.7	1 0.4			237 100	680
	3	南洋南部(170°E以東)	5—10N 170—180E	47		1 0.3		1 0.3	9 2.5	17 4.7	35 9.6	76 20.8	113 31.0	74 20.3	31 8.5	3 0.8	3 0.8	2 0.5		365 100	1128
	24	南洋南部(170°E以西)	2—10N 151—170E	225		1 0.2	1 0.1	11 0.7	69 4.1	178 10.6	219 13.1	382 22.8	493 29.4	216 12.9	77 4.6	13 0.8	15 0.9	1 0.1		1676 100	6073
	1	スマトラ西岸	9—10S 92—103E	14					9 7.4	16 13.2	13 10.7	11 9.1	38 31.4	23 19.0	9 7.4	2 1.7				121 100	360
	4	濠洲西方	15—26S 102—118E	44					4 15.4	1 3.8	2 7.7	3 11.5	6 23.1	4 15.4	6 23.1					26 100	33
	1	セイロン	8—13N 69—73E	33									2 18.2	3 27.3	3 27.3	3 27.3				11 100	322
	1	アラビヤ	3—10N 62—69E	12									2 40.0	2 40.0	1 20.0					5 100	295

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	40cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121cm以上	計	漁獲尾数
びんな	3	ミッドウェー	22—25N 176—170W	71							3 14.3	12 57.1	5 23.8	1 4.8	21 100	25
	11	ハワイ南西(5°N以北)	7—12N 180—164W	246							10 14.5	47 68.1	11 16.0	1 1.4	69 100	82
	4	30—35N 150—180E	29—34N 150—173E	50			17 7.3	19 8.2	59 25.3	113 48.5	20 8.6	3 1.3	2 0.9		233 100	490
	1	東北海区	35—36N 147—148E	9						1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	5 100	24
	12	伊豆東方	29—35N 140—150E	172			58 7.6	106 13.9	371 48.7	163 21.4	45 5.9	15 2.0	4 0.5		762 100	1956
	2	南海々区	29—31N 138—141E	35			5 1.5	45 13.1	285 82.8	6 1.7	3 0.9				344 100	1767
	1	西部太平洋(170°E以東)	28—29N 172—174E	10				4 2.0	16 8.0	108 54.3	65 32.7	3 1.5	1 0.5	2 1.0	199 100	827
	15	西部太平洋(170°E以西)	23—31N 139—170E	200			2 0.1	44 2.1	439 20.7	939 44.3	411 19.4	182 8.6	99 4.7	6 0.3	2122 100	7849
	5	南洋北部(170°E以東)	9—11N 171—180E	78							7 16.3	26 60.5	10 23.3		43 100	44

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	120cm以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241cm以上	計	漁獲尾数
が	3	南洋南部 (170°E以東)	5—11N 170—178E	52						4 12.9	12 38.7	13 41.9	2 6.5						31 100	38
	2	南洋南部 (170°E以西)	9—10N 154—160E	28								2 66.7	1 33.3						3 100	3
	1	西部印度洋	3—9S 50—62E	8						3 1.4	155 72.8	54 25.4	1 0.5						213 100	181
いまんぐどろ	1	スマトラ西岸	9—10S 92—103E	14			1 5.9	4 23.5	3 17.6	7 41.2	2 11.8								17 100	69
	5	濠洲西方	15—26S 102—118E	56		2 0.1	262 18.3	576 40.3	362 25.4	197 13.8	25 1.8	4 0.3							1428 100	7089

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—150	251cm以上	計	漁獲尾数
くろかじき	1	ガラパゴス	7—8S 116—115W	9			1 2.5	1 2.5	6 15.0	2 5.0	9 22.5	4 10.0	3 7.5	3 7.5	6 15.0	4 10.0		1 2.5	40 100	86
	6	0—15S 140—120W	5—11S 133—119W	141	3 1.0	8 2.6	5 1.6	16 5.1	62 19.8	45 14.4	59 18.8	23 7.3	21 6.7	31 9.9	19 6.1	12 3.8	6 1.9	3 1.0	313 100	1301
	1	アルキペラゴ	16—25S 130—127W	32			2 1.6	7 5.7	31 25.2	33 26.8	22 17.9	14 11.4	2 1.6	4 6.9	2 1.6	2 1.6	2 1.6		123 100	748
	3	ミッドウェー	22—25N 176—170W	77			1 16.7		1 16.7	1 16.7		1 16.7				1 16.7	1 16:7		6 100	7
	23	ハワイ南西 (5°N以北)	5—13N 180—159W	525	30 4.1	64 8.7	119 16.2	99 13.5	201 27.4	70 9.5	42 5.7	25 3.4	20 2.7	15 2.0	16 2.2	14 1.9	7 1.0	12 1.6	734 100	909
	4	0—15S 160—140W	1—15S 162—141W	73	6 2.4	22 8.7	28 11.1	34 13.5	59 23.4	29 11.5	18 7.1	11 4.4	20 7.9	12 4.8	3 1.2	4 1.6	1 0.4	5 2.0	252 100	548
	3	サモア	0—3N 169—161W	51	8 3.3	23 9.5	23 9.5	44 18.3	49 20.3	23 9.5	16 6.6	10 4.1	14 5.8	8 3.3	16 6.6	3 1.2	1 0.4	3 1.2	241 100	258
	4	西部太平洋 (170°E以西)	23—30N 143—170E	60				1 5.6	3 16.7	3 16.7	2 11.1	1 5.6	4 22.2	2 11.1	1 5.6	1 5.6			18 100	24
	9	南洋北部 (170°E以東)	9—11N 170—180E	167	6 2.1	24 8.5	46 16.3	48 17.0	73 25.9	25 8.9	11 3.9	7 2.5	10 3.5	12 4.3	10 3.5	4 1.4	2 0.7	4 1.4	282 100	394
	2	南洋北部 (170°E以西)	9—16N 132—158E	31	1 2.0	1 2.0	15 30.0	12 24.0	8 16.0	3 6.0	1 2.0	1 2.0	4 8.0	1 2.0	1 2.0	1 2.0	1 2.0		50 100	50

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251 cm 以上	計	漁獲尾数
わ	9	南洋南部 (170°E以東)	4—10N 170—179E	118	9 2.1	38 8.9	62 14.5	78 18.2	97 22.7	41 9.6	19 4.4	13 3.0	22 5.1	13 3.0	13 3.0	7 1.6	6 1.4	10 2.3	428 100	475
	22	南洋南部 (170°E以西)	0—11N 141—170E	348	64 8.0	121 15.1	197 24.6	140 17.5	129 16.1	33 4.1	21 2.6	22 2.8	15 1.9	19 2.4	10 1.3	8 1.0	4 0.5	17 2.1	800 100	1043
	1	ソロモン	4—8S 159—163E	13	1 3.7	5 18.5	3 11.1	4 14.8	8 29.6			2 7.4	2 7.4			1 3.7		1 3.7	27 100	39
	4	濠洲西方	15—26S 102—118E	49		1 2.6	1 2.6	5 13.2	2 2.6	2 2.6	4 10.5	1 2.6	4 10.5	5 13.2	3 7.9	8 21.1	1 2.6	1 2.6	38 100	53
	3	セイロン	8—13N 69—73E	65		2 1.6	1 0.8	7 5.4	18 14.1	33 25.8	29 22.7	14 10.9	14 10.9	3 2.3	2 1.6	5 3.9			128 100	2422
	2	アラビヤ	9—13N 68—71E	46	7 9.5		2 2.7	5 6.8	12 16.2	16 21.6	16 21.6	2 2.7	4 5.4	8 10.8	1 1.4	1 1.4			74 100	838
魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251 cm 以上	計	漁獲尾数
	3	0—15S 140—120W	5—11S 133—119W	67							1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2		1 9.1	4 36.4	11 100	19
	1	アルキペラゴ	16—25S 130—127W	32					1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7				1 16.7			6 100	61
し	2	ミッドウェー	22—25N 176—170W	56				1 33.3	1 33.3	1 33.3									3 100	3
	11	ハワイ南西 (5°N以北)	5—12N 179—159W	227		1 3.8			3 11.5	1 3.8	2 7.7	1 3.8	4 15.4	2 7.7		2 7.7		10 38.5	26 100	26
	3	0—15S 160—140W	1—15S 162—141W	54					2 7.1	3 10.7	2 7.1	3 10.7	2 7.1	3 10.7			1 3.6	12 42.9	28 100	24
ろ	1	サモア	0—3S 168—162W	17						1 9.1	2 18.2	1 9.1	1 9.1		1 9.1	1 9.1	1 9.1	3 27.3	11 100	9
	1	西部太平洋 (170°E以西)	23—25N 149—152E	15					1 50.0	1 50.0									2 100	2
	5	南洋北部 (170°E以東)	9—12N 171—180E	91					1 12.5	2 25.0		2 25.0	1 12.5					2 25.0	8 100	7
か	5	南洋南部 (170°E以東)	4—10N 170—179E	58					1 14.3		2 28.6	1 14.3	1 14.3			1 14.3		1 14.3	7 100	7
	15	南洋南部 (170°E以西)	0—11N 141—166E	248				6 19.4	7 22.6	4 12.9	4 12.9		3 9.7	3 9.7	1 3.2	1 3.2		2 6.5	31 100	27

わ	1	ソロモン	4—8S 159—163E	13			1 7.7		4 30.8	2 15.4	3 23.1	1 7.7	1 7.7	1 7.7					13 100	11
	1	スマトラ西岸	9—10S 92—103E	14	1 2.0	1 2.0	3 6.1	2 4.1	5 10.2	2 4.1	6 12.2	10 27.4	6 12.2	7 14.3	4 8.2		1 2.0	1 2.0	49 100	34
	4	濠洲西方	15—26S 102—118E	49		1 1.1	12 13.0	7 7.6	1 1.1	5 5.4	14 15.2	12 13.0	16 17.4	8 8.7	7 7.6	4 4.3	4 4.3	1 1.1	92 100	140
	2	セイロン	8—13N 69—73E	52				1 7.7	1 7.7	3 23.1		4 30.8		3 23.1	1 7.7				13 100	74
	1	アラビヤ	10—11N 68—69E	20				1 8.3			2 16.7		1 8.3	1 8.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	12 100	34

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100cm以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221cm以上	計	漁獲尾数
ま	4	0—15S 140—120W	5—11S 133—119W	99			1 3.1	3 9.4	4 12.5	7 21.9	5 15.6	10 31.3	2 6.3						32 100	65
	1	アルキペラゴ	16—25S 130—127W	32					1 7.1		8 57.1	4 28.6	1 7.1						14 100	38
	5	ミッドウェー	22—25N 176—170W	108		10 2.5	98 24.7	109 27.5	57 14.4	53 13.4	59 14.9	10 2.5							396 100	470
	17	ハワイ南西 (5°N以北)	5—13N 180—159W	386	35 11.5	53 17.4	68 22.3	33 10.8	46 15.1	32 10.5	23 7.5	5 1.6	2 0.7	8 2.6					305 100	326
	2	0—15S 160—140W	1—15S 162—141W	37			2 22.2			3 33.3	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1					9 100	7
	1	サモア	0—3S 168—162W	17			1 25.0	1 25.0		1 25.0			1 25.0						4 100	1
か	4	30—35N 150—180E	29—34N 149—173E	54				1 5.9	8 47.1	5 29.4	2 11.7	1 5.9							17 100	12
	4	伊豆東方	29—34N 140—150E	67		1 5.9	9 5.1		7 41.2	4 23.5	3 17.6	1 5.9							17 100	17
	1	西部太平洋 (170°E以東)	28—29N 172—174E	10	3 17.6		3 17.6	2 11.8		2 11.8	1 5.9	1 5.9	1 5.9	1 5.9				3 17.6	17 100	18
じ	11	西部太平洋 (170°E以西)	23—31N 139—170E	165		2 0.9	22 9.4	75 32.2	79 33.9	34 14.6	12 5.2	2 0.9	1 0.4	4 1.7	2 0.9				233 100	274
	7	南洋北部 (170°E以東)	9—12N 170—180E	138	9 5.5	17 10.4	81 49.7	29 17.8	15 9.2	8 4.9	3 1.8	1 0.6							163 100	191

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
き	3	南洋北部 (170°E以西)	9—16N 132—168E	37	2 2.7	12 16.0	20 26.7	9 12.0	8 10.7	19 15.3	3 4.0	1 1.3	1 1.3						75 100	71
	4	南洋南部 (170°E以東)	7—11N 170—178E	58	1 0.9	14 12.4	52 46.0	12 10.6	9 8.0	17 15.0	7 6.2	1 0.9							113 100	102
	20	南洋南部 (170°E以西)	0—11N 141—170E	317	18 4.0	54 12.1	121 27.2	96 21.6	64 14.4	57 12.8	32 7.2	1 0.2	1 0.2	1 0.2					445 100	479
	5	濠洲西方	15—26S 102—118E	56		1 1.6	6 9.5	37 58.7	17 27.0	2 3.2									63 100	73
	1	セイロン	8—13N 69—73E	33				3 4.3	20 28.6	33 47.1	13 18.6	1 1.4							70 100	218
	3	アラビヤ	8—13N 66—71E	60			2 2.0	6 6.0	14 14.0	62 62.6	14 14.0	2 2.0							100 100	576
め	2	0—15S 140—120W	5—11S 131—119W	49						1 20.0			1 20.0					3 60.0	5 100	15
	4	ミッドウェー	22—25N 176—170W	87	1 6.3		3 18.8	5 31.3				1 6.3	1 6.3	1 6.3				4 25.0	16 100	16
	2	ハワイ南西 (5°N以北)	5—12N 180—159W	460	38 32.2	9 7.6	1 0.8	3 2.5		3 2.5	4 3.4		3 2.5		4 3.4	10 8.5	12 10.2	31 26.3	118 100	101
	2	0—15S 160—140W	1—15S 162—141W	42						2 5.7	1 2.9	4 11.4	5 14.3	3 8.6	3 8.6	6 17.1	4 11.4	7 20.0	35 100	22
	1	サモア	2—3S 163—161W	20														3 99.9	3 100	15
か	5	30—35N 150—180E	29—34N 149—173E	68	2 0.6		10 3.2	29 9.4	31 10.0	37 12.0	7 2.3	7 2.3	16 5.2	15 4.9	24 7.8	48 15.5	38 12.3	45 14.6	309 100	685
	1	東北海区	34—36N 147—149E	10			2 5.7	2 5.7	5 14.3	4 11.4	3 8.6				2 5.7	6 17.1	6 17.1	5 14.3	35 100	92
	14	伊豆東方	29—35N 140—150E	214	3 0.4	5 0.7	52 7.1	65 8.9	100 13.7	83 11.3	25 3.4	11 1.5	53 7.2	48 6.6	72 9.8	82 11.2	56 7.7	77 10.5	732 100	1520
じ	1	南海々区	29—31N 138—141E	19					1 33.3	1 33.3						1 33.3			3 100	3
	9	西部太平洋 170°E以西	24—31N 139—170E	126	2 1.4	1 0.7	10 6.8	12 8.2	14 9.5	18 12.2	4 2.7	4 2.7	12 8.2	9 6.1	9 6.1	18 12.2	7 4.8	27 18.4	147 100	192

き	6	南洋北部 (170°E以東)	9—11N 171—180E	112	5 25.0						2 10.0	2 10.0				2 10.0	2 10.0	7 35.0		20 100	19
	2	南洋北部 (170°E以西)	9—16N 132—158E	31	6 60.0				2 20.0				1 10.0		1 10.0					10 100	10
	9	南洋南部 (170°E以東)	5—11N 170—179E	113	4 8.7	1 2.2			2 4.3	3 6.5	2 4.3		8 17.4		1 2.2	1 2.2	8 17.4	16 34.8		46 100	37
	14	0—10N 141—170E	0—10N 141—170E	242	10 16.4	3 4.9	1 1.6			3 4.9	2 3.3	2 3.3	13 21.3	4 6.6	6 9.8	4 6.6	2 3.3	11 18.0		61 100	55
	1	ソロモン	4—8S 159—163E	13						1 33.3						1 33.3	1 33.3			3 100	2
	5	濠洲西方	15—26S 102—118E	56								1 6.3	2 12.5		1 6.3	3 18.8	4 25.0	5 31.3		16 100	18

謹賀新年

日本鰹鮪漁業協同組合連合会
日本鰹鮪漁業者協会

会長 浜地文平
副会長 増田正一
常務理事 小出勲男

日本かつおまぐろ漁業
信用基金協会

理事長 浜地文平
専務理事 高山祥亮

日本鰹鮪漁船保険組合

組合長 浜地文平
副組合長 清滝千代夫
同 増田正一

東京都千代田区平河町二ノ七 (漁業会館内)
電話九段(33)五五六一～五番(共通)

マグロ漁況概況豫報　（1960年2月）

神奈川県水試　漁業指導科

東部太平洋第2漁場（5°—20°N, 150°W以東）

キハダは不漁期で漁獲0.8屯、メバチは好漁期で4.0屯程度でしよう。

東部太平洋第3漁場（5°N—10°S, 150°W以東）

この漁場は緯度によつて異なり、赤道から北緯5°までの水帯がキハダ0.9屯、メバチ3.5屯、赤道から南緯2°までがキハダ3.0屯、メバチ4.0屯、南緯2°から5°までがキハダ2.5屯、メバチ4.0屯、南緯5°から7°までがキハダ2.5屯、メバチ5.0屯、南緯7°から10°までがキハダ2.5屯、メバチ1.2屯程度でしよう。但しこの分布の境は経度により多少異なり、又絶えず変化しています。

東部太平洋第4漁場（10°—30°S, 150°W以東

ビンナガは不漁期で0.4屯、クロカワは好漁期で2.0屯、キハダは少なく0.8屯程度でしよう。

中部太平洋第1漁場（20°—40°N, 170°E—150°W）

メバチは好漁期で2.0屯程度、マカジキは不漁期であり、又、ビンナガは移動群が南西方へ通過した後に当たり、共に漁獲は殆んどないでしよう。

中部太平洋第2漁場（5°—20°N, 170°E—150°W）

メバチは好漁期で180°以西の海域が1.7屯、180°以東が2.5屯、クロカワは不漁期で0.2屯程度でしよう。

中部太平洋第3漁場（5°N—10°S, 170°E—150°W）

キハダは不漁期ですが1月よりやゝ良く2.0屯、クロカワは北緯5°から南緯5°までが不漁期で0.2屯、南緯5°から10°までは好漁期で1.2屯程度でしよう。

中部太平洋第4漁場（10°—30°S, 170°E—150°W）

ビンナガは不漁期で0.4屯、クロカワは好漁期でタヒチ島周辺は2.0屯、その他の海域は1.0屯程度でしよう。

中部太平洋第5漁場（30°—40°S, 170°E—150°W）

ゴウシユウマグロは180°以西で2.7屯、180°以東で3.6屯、ビンナガは好漁期の後で0.2屯程度でしよう。

西部太平洋第1漁場（20°—40°N, 120°—170°E）

キハダは不漁期で0.1屯、メバチは伊豆諸島周辺がやゝ高くて0.3屯、他の海域は0.1屯程度、ビンナガは魚群が以東部から南西部へ移動しつゝあり、北緯35°以北の海域及び北緯30°から35°までの東経160°以東の海域は0.1屯、北緯30°から35°までの東経160°以西で0.3屯、北緯20°から30°までの海域は最も良くて0.7屯程度、又、メカジキは

東經140°以東北緯30°から35°までの海域で0.4屯、35°から40°までは0.2屯程度でしょう。

西部太平洋第2漁場 (5°—20°N, 120°—170°E)

メバチは東方へ移動した後に当たり0.5屯、クロカワは不漁期で0.3屯程度でしよう。

西部太平洋第3漁場 (5°N—10°S, 120°—170°E)

キハダは好漁期の後で、北緯5°から南緯5°までの海域で0.9屯、南緯5°から10°で0.6屯、クロカワは北緯5°から南緯5°までの海域で0.3屯、南緯5°から10°で0.2屯程度でしよう。

西部太平洋第4漁場 (10°—30°S, 140°—170°E)

キハダは好漁期で1.8屯、ビンナガは緯度によつて異なり、南緯10°から13°の海域は1月より良くて0.4屯、13°から20°及び20°から22°は1月より悪く、それぞれ0.4屯0.2屯、となり、シロカワ及びマカジキはいずれも不漁期で漁獲は殆んどないでしよう。

南 支 那 海 漁 場

キハダは不漁期で0.5屯、メバチは好漁期で0.7屯程度でしよう。

バ ン ダ 海 漁 場

キハダ、メバチ共に不漁期でそれぞれ1.0屯、0.4屯で、シロカワはアル・セラム島周辺で1.1屯程度でしよう。

ベンガル湾漁場 (5°N以北)

キハダ・メバチ共に1月より僅かに良く、それぞれ1.6屯、1.0屯で、マカジキは殆んど漁獲がないでしよう。

アラビア海漁場 (5°N以北)

キハダは好漁期の前で2.4屯、クロカワはインド半島南西方の海域が好漁期ですが1月よりは落ちて1.6屯程度でしよう。

中部印度洋漁場 (5°N—10°S, 100°E以西)

キハダは好漁期で東経70°以東が2.4屯、以西は3.2屯、メバチ、ビンナガは不漁期でそれぞれ0.5屯、0.2屯程度でしよう。

濠洲西方漁場 (10°S以南、100°E以東)

キハダは小スンダ・チモール南方海域は南緯17°以北で2.0屯、ジャワ南方海域は南緯13°以北で1.5屯程度、ビンナガは不漁期で漁獲は殆んどなく、インドマグロは12月1月にひろがつた魚群が再び集中して密になるため漁獲は多くなり2.0屯、又、クロカワは0.5屯、シロカワは0.1屯程度でしよう。

まぐろ研究報告の紹介

No. 8

太平洋南北両半球のいわゆるマカジキの資源的関連についての研究——I*
外部形態の比較

上村忠夫・本間　操

（南水研研究報告 8，1958）

南北両太平洋のいわゆるマカジキの資源的関連性の究明を目的として行部形態の比較を行った結果について報告する.

1）　南北両太平洋の所謂マカジキの外部形態を，体長に対する下記の部位の相対成長によって比較を行った.

眼～第1背鰭起部，眼～腹鰭起部，眼～第2背鰭鰭部，眼～第1背鰭起部，胸鰭長.

その結果，胸鰭長に極めて著しい差異が認められた.

2）　この事実から，南北両太平洋のマカジキが高度に独立した集団を形成していることを推定した.

（紹介中込）

マンゴリ，タリアブ両島沿海におけるマグロ漁況について（第1報）

植田総一・玉利達夫

（鹿児島大学水産学部紀要 7，1959）

マンゴリ，タリアブ両島沿海のマグロ漁況について，両島の南，北側，夏，冬期を比較し，その漁獲状況及び魚体について若干の考察を試みた.

その結果，釣獲率は北側海域の冬期6.0%，南側海域の夏期5.8%で，南側海域の冬期におけるより，わずか1%程度高率で大差はない.

南側海域の夏期に於ては，メバチの出現率が高く，38.0%を示しており，魚体も大きく，体長141～151cmが30%，体重60kgが41%以上，肥満度も平均23.08を示すもので，釣獲率，魚種，魚体等を綜合的に考慮すれば，最も漁業的価値に富んでいる.

北側海域の冬期の釣獲率は前述の通りであるが，漁業の主体をなすキハダ，メバチの釣獲率が低いので，南側海域の夏，冬期に比して漁業的価値は少いものと判断される.

かごしま丸，敬天丸，富士丸の操業位置（陸岸に近い延縄端の位置）及び釣獲率の調査から，南側海域に於いて，タリアブ島沖の200m等深線にほぼ平行した距岸20浬の線上に，夏，冬期を通じてかなり高い釣獲率を挙げている．また，この線から南，北約10浬の間線上にも比較的に好況な結果が現われている．これらの線は海流の方向とほぼ一致している点が注目される.

操業中，漁具の中央位置の移動を測定した結果からと，付近の港の平均高潮間隙から勘案略算した潮時から，距岸25浬付近迄，潮汐の影響あることを認めた.

（紹介中込）

まぐろ延縄漁業における漁獲率の海区別経年変化の概観

（1）

永井 三夫・中込 淳・福岡 信之
（神奈川県水産試験場）

I 緒 言

漁船がこれから向かう漁場を決める際には，先ず，各漁場の漁獲率の周年変化，すなわち好漁期を知っておくことが必要であり，従来，神水試で行って来た漁況予報は，この漁獲率の周年変化の結果を根幹として来た．

ところが，漁期（好，不漁期）に対する予報の当確率が，昭和32年に85.0%[1]，昭和33年に87.2%[2]でほぼ同率であるのに対し，漁獲率に対する予報の当確率は，昭和32年に76.8%，昭和33年には66.3%[2]であり，著しく低下した．

これは，漁獲率の経年変化について，あまり重きをおかなかったためである．

しかるに，従来，殆んどの漁場が操業され始めて間もないため，この点の研究は殆んど行われず，最近に到り，昭和30年度までの変化について発表されたのみである[4]．

また，漁獲率の年間の差は，時間的，場所的に分析して比較しなければ正確なところは解らないが，その分析を行うには非常な労力と時間を必要とし，今直ちに利用するには間に合わない．

そこで，各海区の漁獲率の経年変化を，予報作成の参考及び業者の漁場決定に役立てるため，分析せずに算術的に計算した年平均漁獲率をもって表わしここに報告する．

現在までに，既に2，3の海域の2，3の魚種について分析し，詳細な結果を得たが，その結果は逐次報告する．

なお，計算に関与された渡辺菊枝，長沢三枝子，篠田富士江の各氏に対し，謝意を表する．

II 資料及び方法

（省 略）

III 結果及び考察

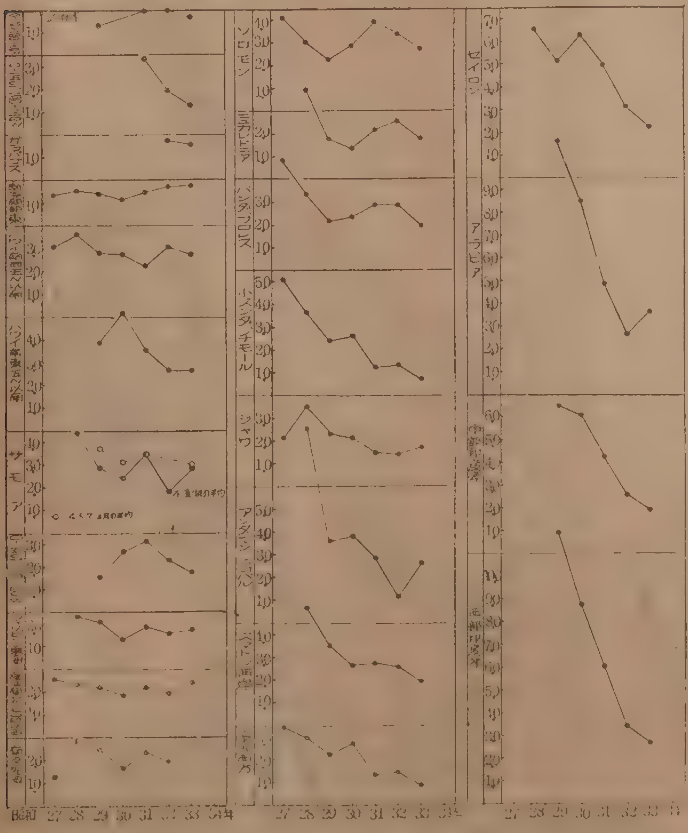
1．キ ハ ダ

キハダの漁獲率の経年変化は，図1に示す（海区名については本誌最前頁のマグロ漁場図を参照されたい．）

すなわち，

1） 太平洋0～5°Nの水帯のキハダは，概して年間の差がなく，

図1



ほぼ一定の漁獲を続けているが，クリスマス島を含むハワイ南東5°N以南の海区は，昭和30年から32年にかけて低下した後，32，33年が同率になり，周囲海域と異なっている．

2) 太平洋 0～10° S の水帯のキハダは，どの海区も，昭和27年から29年まで低下し，29年から31年まで上昇した後，33年にかけて再び低下し，6年周期の経年変化をしている．但し，サモア海区は，昭和29年の漁獲率が高くて32年の漁獲率が低いが，年により操業期が異なるので，どの年においても操業されている4，5，7，3月の平均値を比較すると，漁獲率の年間の差は殆んどみられない．

3) ニューカレドニアは，太平洋0～10° S の水帯の，年おくれの変化をしており，昭和28年から30年まで低下，30年から32年までに上昇し，33年に低下している．

4) 南支那海は独特の変化をしているが，年により操業月がかなり異なるので，信憑度は低い，

5) 東部印度洋は，アンダマン，ニコバル海区の昭和32年が不漁期の平均値，33年が好漁期の平均値であるため，殆んどの海域がなお低下途上にある．但し，ジャワ沿海は既に低下が止まり，昭和31年以降同率を続けている．

6) バンダ，フロレス海は，太平洋0～10° S の水帯と東部印度洋の両者の影響を受けているので，両者の中間型の変化をしている．この海域が太平洋の影響を受けるのは夏であり，また北側の海域であり，東部印度洋の影響を受けるのは冬であり，また南側の海域であるので[4)]，その時期のその海域の漁獲率は，上記2海洋とほぼ同じ経年変化をするのではないかと考えられる．

7) 中，西部印度洋漁場の各海域は，操業開始以来，昭和32年まで急激に低下して来たが，33年にかけてその低下率は著しく小さくなっているので，34年乃至35年には低下が止まるものと考えられる．

（つづく）

文　献

1) 神水試：未発表
2) 神水試：未発表
3) 神水試：昭和32年度業務報告，1959.
4) 日本鰹鮪漁協組連：昭和33年版マグロ延縄漁業平年漁況図

謹　賀　新　年　　　　元　旦

日魯漁業株式会社

三崎事業所　所長　菅　野　進

三崎事業所　神奈川県三浦市三崎町入船41番地
電話（三浦）2866・3364・2003番
本　社　東京都千代田区丸ノ内2ノ2　丸ビル4階
電話和田倉(20)代表 1851番

船上におけるキハダのグリンミート検出試験報告

森　園　民　哉
（第12住吉丸）

輸出マグロのグリンミートによる損失は非常に大きく，輸出会社及び輸出に関与している漁業会社にとりかなりの負担となっているが，最近，東海区水研平尾氏等により，グリンミートを腎臓により簡単に検出する方法が発見された。[1)]

この報告は，本船の大西洋操業に当り，会社より電報で指令を受け，調査した結果である．

資料及び方法

資料は14°N，22～24°Wの漁場のキハダであるが，海域による調査経過の差は殆んどないものと思われる．

道具はダカールにて準備したが，ニュウバチと秤はなく，フラスコ2個のみである。*

きれいに洗った板の上に小量の腎臓をとり，それを出刃ぼうちょうの背で潰し，目分量で 1gr をとって前記20cc入りフラスコの中に入れ，海水をフラスコの半分位まで入れてよく振り，その色調を判断した．

色調は電文による10種の外に，茶と暗い茶との間に薄茶を入れ11種，すなわち，黒，灰黒，茶黒，樺，暗い茶，薄い茶，茶，明るい茶，薄赤茶，赤茶，赤とし，更に，これらの中間の色があれば，暗い赤茶のように随時加えた．しかして，便宜上，これらの色調に．黒を0点として上記の配列順に一連の点数を付し，随時加えた色調には暗い赤茶 7.5 のように 0.5 を単位にして表わした．

数回の予備調査の結果，その色調が魚体の大きさ，生死，死後の経過時間により差のあるように思われたので，色調とこれらとの関係についても調べた．

備考欄にボイルテストの結果云々とあるのは，その肉片を正常と思われる魚体の肉片と共によく沸いた湯の中に数回つけて比較した結果である．

（*これもようやく手に入れたものである。）

結果及び考察

結果は表1に示す。

1）　魚体の大きさと色調との関係

表1より，魚体の大きさ（貫）と色調との関係を，*

表 1

貫数	観測時間	生死ノ別	色	備考
2〆	15.30	死	Ⓐ 赤	美しい澄んだ赤色
10〆	16.00	生	Ⓐ 赤	
〃	21.00	死	Ⓐ 赤	
11〆	15.00	生	Ⓐ 濃い赤	
〃	15.30	死	Ⓐ 赤茶	
〃	16.30	生	A 赤茶	1回鮫に喰われて其の傷が治った跡がある
12〆	14.30	生	Ⓐ 赤	非常に明るい色
〃	15.00	生	Ⓐ 薄赤茶	
〃	16.30	生	Ⓐ 濃い赤	
〃	〃	死	Ⓐ 赤茶	
13〆	15.00	死	Ⓐ 赤茶	
〃	〃	生	Ⓐ 薄赤茶	
〃	15.30	死	Ⓐ 濃い赤茶	死んで間も無い
〃	17.00	生	Ⓐ 赤	

貫数	観測時間	生死ノ別	色	備考
13〆	18.30	死	Ⓐ 薄赤茶	
〃	21.00	死	Ⓐ 赤茶	
〃	〃	死	Ⓑ 樺色	死後，大分時間が経過し，エラが半分白くなっていた
14〆	14.00	死	Ⓐ 赤茶	死んで間も無い
〃	〃	死	Ⓐ 薄赤茶	
〃	15.00	死	Ⓑ 樺色	
〃	15.30	死	Ⓑ 薄茶	
〃	〃	死	Ⓑ 明るい茶	
〃	18.00	死	Ⓑ 明るい茶	エラがやや白くなっていた
〃	18.30	死	Ⓐ 赤茶	
〃	22.00	死	Ⓐ 赤茶	
〃	〃	死	Ⓑ 暗い茶	死後，相当時間が経過したもの
〃	〃	死	Ⓑ 薄い茶	全然血の気が無く薄い色となる
〃	23.30	死	Ⓐ 赤茶	
15〆	15.00	死	Ⓑ 薄い茶	
〃	15.30	死	Ⓐ 赤茶	
〃	16.00	死	Ⓑ 暗い茶	
〃	16.30	死	Ⓒ 薄茶黒	鮫喰い（肉が半分位になったもの）
〃	〃	死	Ⓑ 茶	
〃	18.00	死	Ⓐ 薄赤	
〃	20.00	死	Ⓒ 薄茶黒	腹の部分を少々鮫に喰われていた
〃	〃	生	Ⓑ 薄茶	
〃	21.00	死	Ⓐ 赤茶	
〃	22.00	死	Ⓑ 暗い赤茶	
〃	22.30	死	Ⓒ 暗い赤黒	ボイルテストの結果グリーンミートらしい
〃	23.00	生	Ⓐ 明るい赤	
〃	〃	死	Ⓐ 赤茶	
〃	23.30	死	Ⓑ 暗い茶	鮫喰い
16〆	15.00	生	Ⓐ 濃い赤茶	
〃	〃	死	Ⓑ 濃い茶	やや濁りがある
〃	15.30	死	Ⓐ 赤	
〃	16.00	死	Ⓑ 暗い赤茶	
〃	16.30	生	Ⓐ 濃い赤	

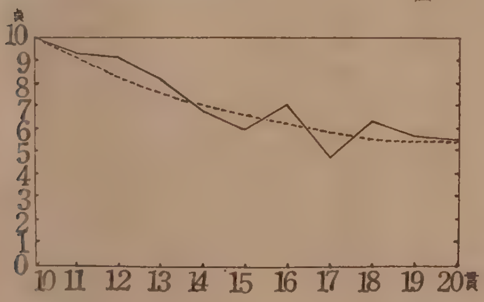
貫　数	観測時間	生死ノ別	色	備　　　　　考
16〆	17.00	死	Ⓑ 暗い茶	
〃	18.00	死	Ⓑ 暗い茶	
〃	22.00	死	Ⓐ 濃い赤茶	
17〆	14.00	死	Ⓑ 薄樺	鮫喰い（腹の部分）腎臓に血の気無し
〃	〃	死	Ⓑ 薄樺	
〃	15.00	死	Ⓑ 暗い赤茶	
〃	16.00	死	Ⓐ 濃い赤茶	
〃	16.30	生	Ⓒ 薄茶黒	生きて来たが凄く悪い色に出た腎臓を取り出した時に已にビスケットの様な色であった
〃	〃	生	Ⓐ 赤	
〃	〃	死	Ⓑ 暗い赤茶	
〃	18.30	死	Ⓑ 薄樺	
〃	19.00	死	Ⓑ 暗い茶	
〃	20.00	死	Ⓐ 赤茶	
〃	〃	死	Ⓐ 赤	
〃	21.00	死	Ⓑ 濃い茶	
〃	21.30	生	Ⓑ 暗い茶	
〃	22.00	死	Ⓑ 暗い茶	
〃	22.30	死	Ⓑ〜Ⓒ薄暗い茶	ボイルテストの結果グリーンミートと断定出来ないが比較すると薄黒い様な色であった
18〆	14.00	死	Ⓒ 薄い茶黒	ボイルテストの結果グリーンミート
〃	〃	死	Ⓐ 赤茶	
〃	15.30	死	Ⓑ 暗い茶	
〃	16.00	死	Ⓐ 赤茶	エラが幾らか白くなったもの
〃	17.00	死	Ⓑ 暗い茶	
〃	〃	死	Ⓑ 茶	
〃	18.30	生	Ⓐ 濃い赤	何回も水洗したが腎臓を潰した時血でドロドロになる
〃	19.00	死	Ⓑ 暗い赤茶	
〃	〃	生	Ⓐ 濃い赤	血が大分混る
〃	19.30	死	Ⓑ 薄樺色	
〃	20.00	死	B 暗い茶	
〃	〃	死	A 赤茶	
〃	〃	死	B 茶	
〃	21.00	生	B 茶	
〃	22.00	死	A 赤	1時間位前に鮫に喰われたと推定され，腎臓を潰すと血でドロドロになる

貫 数	観測時間	生死ノ別	色	備 考
18〆	22.30	死	Ⓑ 暗い茶	
〃	23.00	死	Ⓑ 薄い茶	
19〆	15.30	死	Ⓐ 赤茶	
〃	19.00	死	Ⓑ 樺色	
〃	19.30	死	Ⓑ 茶	
〃	20.30	死	Ⓐ 濃い赤	腎臓を潰した時血餅状となる
〃	21.00	死	Ⓑ 樺色	
〃	22.00	死	Ⓑ 暗い茶	死後長時間を経過したもの
20〆	14.00	死	Ⓑ 暗い赤茶	
〃	〃	死	Ⓐ 赤茶	
〃	15.00	生	Ⓑ 暗い茶	
〃	16.00	生	Ⓑ 暗い赤茶	
〃	18.00	生	B 明るい茶	
〃	〃	死	B 暗い赤茶	
〃	19.30	死	B 樺色	

註ⒶⒷⒸは色調の3グループのことで Ⓐ 赤，赤茶，薄赤茶 / Ⓑ 明るい茶，茶色，暗い茶，樺色 / Ⓒ 茶黒，灰黒，黒色

*魚体の大きさ別の色調の平均点数で表わすと，図1のようになる．実線は実測値をつないだもの，点線は両者の関係を示す推定曲線である．

図1



図から明らかなように，魚体の大きいもの程色調の点数は低下する．赤から黒に至る色調の点数が肉質の良悪を示すものと仮定すれば，魚体の小さいもの程肉質が良く，大きいもの程悪くなるものと考えられる．

グリーンミートは2点以下の色調であるが，図1において2平均色調の点数が5点を下ることはない．又1尾1尾の色調の点数はこの上下に点在するのであるが15貫未満の魚体には，2点以下のものは1尾もみられなかった．しかるに15貫以上になると平均色調の点数の低下にともない．例外的に2点以下に点在する魚体も出現し，これがグリーンミートとなるものと考えられる．

2） 死後の経過時間と色調との関係

この問題を正確に調査するためには，生きているマグロを海水中につけておいて一定時間ごとに引き出して調査しなければならないが，この方法は不可能であるので，死後の経過時間と揚げ始めから調査時までの時間が大凡比例するものと仮定し，揚げ始めから調査時までの時間と色調との関係を，揚げ始めから終了までを5等分した各時間別の平均色調により比較すると，表2のようになる．

すなわち，色調は揚げ始めから調査時までの時間，すなわち死後経過時間には関係なく，ほぼ一定である．これは死後経過時間の差が，大きくて10時間位のものであり，この点からも考えられないことではない．

ただし揚げ始めから調査時までの時間と死後経過時間とはかならずしも比例せず，又前述したように魚体

表 2

揚げ始めより	0:00～ 2:30	3:00～ 4:30	5:00～ 6:30	7:00～ 8:30	9:00 以降
時　　　刻	13:00～15:30	16:00～17:30	18:00～19:30	20:00～21:30	22:00 以降
色調の平均点数	7.1	6.8	6.0	6.7	6.1

の大小により色調が異るのであるし，しかも予備調査中には生死と色調，及び死後経過時間と色調との間に関係がうかがえたので，上の結果の誤差は非常に大きいものと考えられる．

3） グリーンミートの割合について

調査尾数95尾のうちグリーンミートと断定したものは5尾，疑わしかったものが1尾であった．しかしグリーンミートと断定したもののうち2尾は鮫食いであったので，この2尾を除去すると調査尾数93尾のうち3.5尾（疑わしいものを0.5尾として）がグリーンミートであり，その割合は4％弱となる．

この結果は，われわれがイタリアにおいて水揚した時のグリーンミートの割合と一致し，この調査の正確度はかなり高いものと考えられ，またグリーンミートの割合についてはイタリアでは良心的であったと想像される．

4） その他気付いたことについて

腎臓に血が多量に含まれているものとほとんどないものとがあり，血が多量に含まれているものは，何回洗っても，潰した場合血餅のようになり，フラスコに入れた時の色は真赤な血の色となる．血のないものは薄くにごった色となる．

色調から判断すると前者は良好な肉質，後者は不良な肉質という結果になるが，多量の血を含む腎臓の肉質が良好で血を含まない魚体の肉質が不良ということは疑問であり，概して生きた魚体の腎臓は多量の血を含み，死んだ魚体の腎臓は殆ど血を含まないが，時としてこの逆の現象の生ずることがあり，従って，この場合は逆の結果の生ずる可能性がある．

又鮫に背中を喰われたものは色調が正常な魚体と変わらず，腹部を喰われて内臓から血がぬけたものは色調の点数が低くなり，表1において鮫喰いでグリーンミートの色となった2尾はいずれも腹部を喰われたものである．

検出方の適中率が80％であると報告されているが，上記の現象も適中率を低下させている一因と考えられる．

グリーンミートになる危険性のある腎臓の色は，ビスケットをぬらしたような色で赤味のないことが明らかとなり，したがって多忙の時は全魚体について上記の試験を行うことは容易ではないので，先ず，腎臓の色により検査しその結果危険性のあると思われたもののみ上記の検出又はボイルテストを行えば，グリーンミートを簡単に発見することが出来，水揚時の魚体のグリーンミートの割合を低下させることが出来るものと考えられる．

回転式桶を用いてマグロ延縄漁具を取扱う一つの新しいこころみ

（1）

太平洋水産研究所
ハーバート・ジェイ・マン
訳文 河 口 喬 太 郎

＝現在の日本の鮪漁業では漁法の合理化が緊要事であると考えられる。そこでアメリカにおける鮪漁船の桶式漁具についての研究報告について神水試、河口技師にほん訳して頂いてここに紹介する。 編 集 係 ＝

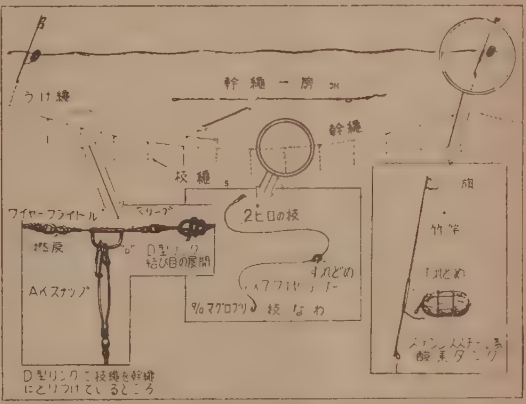
要　　約

従来の方法より相当の労力が回転式の桶の使用によって節約される．毎日の操業の為に接いだり，ほどいたりしなければならない個々の縄鉢を使用する代りに1本の連続した幹縄が木製の格納ドラムによって投揚縄される．新しい操業方法を用いるためには，従来の漁具をわずかに改良すれば足りる．

緒　　言

本文は，米国魚類野獣局の太平洋水産研究所が中部太平洋のマグロ漁業開発計画に基づいて行った漁具，漁法に関する第三番目の報告書である．内容は従来の延縄漁法と比較して人力を節約する〝桶式〟漁法と呼ぶ延縄漁具の取扱いに対する新しい技術について記述する．太平洋水産研究所（以下太水研と記す）に於て改良した延縄漁具の設計，漁法についての以前の報告は1953年ニスカ（Niska），1955年マン（Mann）の両氏によってなされている．本報告に於ける〝延縄〟とは，マグロ，カジキ類に対して日本及びハワイの公海漁業で用いられているマグロ延縄方式の漁業を示す．本漁具は，通常長さ数マイルの長い幹縄から一列の装餌した釣針をつけた枝縄をつった構造のものである．幹縄は浮子と浮子綱によって等間隔に海面からつられている．漁具は錨でセットされないので風や海流によって流され海面下100～500フィート（30～150メーター）の層で釣操業が行われる．

日本人はマグロをとるのに有効な方法として延縄をみいだし，現在日本のマグロの大部分はこの方法でとられている．然しながらこの延縄がアメリカの漁民には余り普及されない．現在実施されている漁法に二つの大きな不利益な点があってアメリカの産業として一般に受入れられることを阻んでいる．第一にはこの方法は漁獲に関する限り，各種各サイズの魚がとれ選択性がないことである．これは日本の様に市場が総ての型の鮮魚の需要に応じられる鮮魚経済に於ては差支えないが，アメリカの様に一定の大さと種類の魚を取扱ってきた缶詰工業を相手としている場合にはいくつかの問題がでてくる．第二には延縄漁業には比較的多人数の人間が要求される．外洋の大部分はマグロの密度が比較的低いので営利を見込まんがためには広範囲に亘って大量の漁具を用いることを必要とする．日本の漁船は1日1200から1500の釣針を使用して，漁具の組立て，装餌，投縄，揚縄，格納等の為に20人以上の人が要求されている．アメリカの旋網や竿釣漁船の同程度のものでは普通約12名の乗組である．太水研は漁具を使用するに必要な人員を減らすための漁具改良を何回か試みた．例えばドラム捲取式の方法を試験的に試みた．これは従来のものが一鉢一鉢にわかれるのを木製ドラムを使用して多量の直結した幹縄をまきつける様にしたものである．もう一つの試みでは幹縄を綿糸の代りにワイヤーロープとし，高速度の複式ドラムウインチを用いて漁具の投入復旧を行った．この両者の試みではウインチの不活発な問題と投縄時の幹縄に枝縄をとりつける方法に難点がみいだされた．どちらの計画もその改良



第1図　桶式漁具図解

の継続性を証明するに充分な資料を提供していない．

最近の改良

極最近のマグロ延縄の改良はここに記されている桶式方法で，試験操業でも成功性を証明した．この方法では相当量の長さの幹縄がその名の示す様に木製格納

桶から投縄され又格納される．枝縄や浮子縄は投縄中でも幹縄からの取はずしとりつけが自由である．

幹縄を取扱うことを省くことによって，相当の労力を節減できる．当局の調査船ジョン・アール・マンニング号及びコモンウエルス号での試験航海では，新しい漁法と従来の方法との取扱上の比較をずっとされたが太水研で普通使用している 60～100 鉢分の一セットが桶式漁法によると5人又はそれ以下で為しうるが従来の漁法だと乗組員全員11名が必要であった．

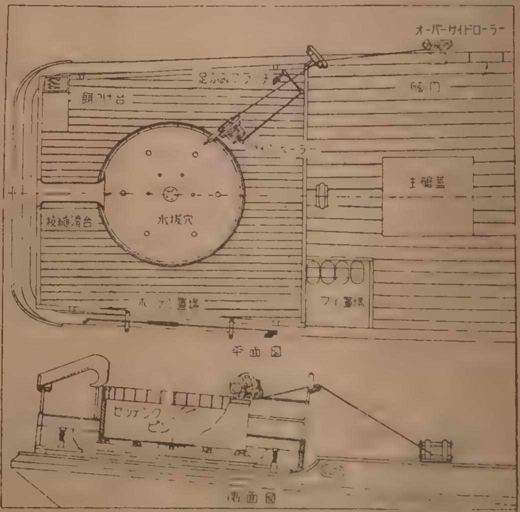
第一図に示されるのは太水研使用の試験漁具一鉢の図解である．Dリング（図表左下端に示される）を除いては，本漁具は前報告書（マン，1955年）に詳細に記された太水研の標準設計のものである．太水研によって考案された無標準の金具，Dリングも一つの新しい進歩である．その機能はどの角度からの引張りにも枝縄と幹縄の間に自由な回転動作を与えるためである．以前にはＡＫスナップがワイヤーのブライドルに直接かけられた．この装着の方法は普通枝縄が幹縄の廻りを回転することができ，この為，漁具が船に取込まれつつあるときに，枝縄が幹縄に捲きつくことを防止した．しかし大きな魚が幹縄に平行に枝縄をひっぱる時には屢々その機能の適性がこわされた．強い張力によって鋭角となった場合にはスナップは回転動作をもつことがなくなり，時として型がくずれ或は破壊された．この新しいDリングは枝縄にどの方向にも適度に回転作用を与える．D型リングは，外径16分の5インチ，内径32分の3インチのステンレススチールのチューブで出来ている．下の部分は16分の３インチ径の材料で，U字型にまげたものを上記のチューブに熔接してある．リングは７×７ステンレススチールワイヤーロープ，直径32分の３インチ，長さ６インチでできているワイヤーブライドルに通される．ブライドルの両端の真鍮製撚戻しをとりつける部分は，ハンドプレッサーでワイヤーにスリーブ（ニクロプレス金具）をはめプレスしてワイヤーの環にしてある．撚戻しは，延縄がラインホーラーで捲込まれている間に生ずる**トルク**をとく為に用いられる．

桶の構造

第２図は試験船マンニング号に装備された試験的延縄桶の図解である．桶はこの型の船が通常旋網で占められる場所にターンテーブルの上に据付けられている．桶とレールの間には周囲とも作業に充分なスペースがとってある．メンデッキにボルト締されたサイドの軸承と推力がどちらの方向にも桶を廻すことができる．円形のスチール板で補強された桶の底の縁は旋網のターンテーブルを保持するために以前使用された８ケの鋳物のローラーで廻転できる様になっている．ターンテーブルの上面に格子板とレールをとりつけることは波に洗われない安全な作業場ができるし操業中桶を動かしやすくする．

第３図は桶の詳細構造図である．桶の内側及び外側は，垂直に走る木目をもった厚さ4分の1インチの漁業用合板の板でできている．両側の板は，２×４インチの柱によってわかれている．底は4分の3インチ合板の二枚板でつくられている．底の廻りには，２インチの水抜穴が或間隔であけられている．桶は8分の3×３インチの帯状の円形スチールバンドを外壁の廻りの形のリングに熔接して補強されている．セッティングピンは長さ12インチ，径2分の1インチのステンレススチールの棒で出来ており桶の内側縁に等間隔にとりつけられる．ピンは座の上にしっかりとはめられたステンレススチールの台の中に通される．これらのピンは操業中幹縄がこの上をふみつけながら桶の中につめこまれるときに非常に強い張力が作用するので堅固にとりつけられている．

マンニング号の桶は内径11.5フィート，高さ４フィートである．この大きさで太水研の幹縄漁具 100 鉢を



第2図　ジョン　アール　マンニング号上の桶の

格納できる．現在できている桶は手で廻すようになっているが若し大量の漁具を企業的に用いる場合には機力で桶を廻すことが望ましい．（次号完）

鮪漁業研究会会員名簿

番号	会員氏名	住所	職業	摘要
1	永井三夫	神奈川県水産試験場	場長	理事，正会員
2	菅野進	日魯漁業株式会社久里浜支社		会長理事，〃
3	野村俊造	神奈川県水産課	施設係長	理事 〃
4	河口喬太郎	神奈川県水産試験場	漁業指導科長	監事 〃
6	株式会社北海道漁業公社 東京支社	東京都港区芝新橋4ノ1 林兼新橋ビル		
8	山本武男	高知県安芸郡室戸町	幸丸船主	
9	三崎船舶工業株式会社	神奈川県三浦市三崎町		
10	稲垣守泰	富山水産高校	富山丸船長	
11	五洋水産株式会社	東京都千代田区丸ノ内丸ビル6階		
13	有限会社佐藤薬局	神奈川県三浦市三崎町		
16	三崎漁業資材株式会社	〃		
17	木暮俊和	神奈川県水産試験場	たちばな丸船長	
18	信太一夫	神奈川県水産課	技師	
20	神奈川県立三崎水産高等学校	神奈川県三浦市三崎町		
21	大山弘	住吉漁業株式会社		
22	拓洋水産株式会社	神奈川県三浦市三崎町		
23	中谷清明	横須賀市西浦賀町 室戸岬船員同志会々長		
24	アサヒテックスロープ 株式会社	東京都三鷹市下連雀400		
25	神奈川県漁業無線協会	神奈川県三浦市三崎町		
26	三崎遠洋漁船製氷株式会社	〃		
27	林茂	三崎漁業協同組合連合会 製氷冷凍工場	工場長	
28	日魯漁業株式会社三崎事業所	神奈川県三浦市三崎町		賛助会員
31	日本民衆産業株式会社 三崎出張所	〃		
32	神奈川県鰹鮪漁業協同組合	〃		
33	〃	〃		
34	日本無線株式会社	東京都港区芝田村町1ノ7 第3森ビル		
35	飯塚和夫	福島県水産試験場	磐城丸船長	
38	昭和礦油株式会社	神奈川県三浦市三崎町		
40	山下倉太郎	高知県安芸郡室戸町	幸成丸船主	
41	山本兎喜一	〃	多可丸	
42	泉井安吉	〃	新南丸船主	
44	武井昌策	〃	正丸船主	
45	黒岩一夫	〃	大黒丸船主	
46	室戸鰹鮪漁業船主組合	〃		
50	田中慧	大洋漁業株式会社三崎営業所		
51	広川市蔵	五洋水産株式会社		
52	若生光一	神奈川県三崎漁港管理事務所	所長	理事，正会員

番号	会員氏名	住所	職業	摘要
53	中条宏造	神奈川県水産試験場	相模丸船長	
54	鈴木公彦	〃	相模丸二航	
59	出光興産株式会社三崎出張所	神奈川県三浦市三崎町		
60の1	焼津遠洋漁業協同組合	焼津市焼津市中二三〇		
60	種石藤一郎	〃 組合内	春日丸	
61	小林亀吉	〃	亀宝丸	
62	西川正次	〃	松生丸	
63	増井礒太郎	〃	国生丸	
64	見崎鹿造	〃	見宝丸	
65	増田吉夫	〃	明神丸	
66	見崎永太郎	〃	栄吉丸	
67	山口新八	〃	新勢丸	
68	服部源右ヱ門	〃	丈喜丸	
69	河合喜八	〃	三国丸	
70	寺岡甚七	〃	甚生丸	
71	富山県立水産高等学校	富山県滑川市高月		
73	五洋水産株式会社三崎営業所	神奈川県三浦市三崎町		
75	神奈川県漁業協同組合連合会浦賀支所	横須賀市洲崎		
76	水上俊文	五洋水産株式会社	新洋丸	
77	奥茂	神奈川県三浦市三崎町		
78	奥津水産株式会社	〃		
80	三崎沿岸漁業協同組合連合会	〃		
82	林野長二	東都水産株式会社船舶課		
83	村田敏男	宮崎県水産高校	進洋丸船長	
84	中西達一	三浦市三崎町諏訪2572		
87	静岡県立焼津水産高等学校	焼津市焼津589		
89	三崎漁業協同組合連合会	神奈川県三浦市三崎町		
92	川平治良		5 秋津丸	
94	東京築地魚市場大物業会	東京都中央区築地中央卸売市場内		
95	和田光太	東京都世田ヶ谷区世田ヶ谷町5ノ2947	日魯漁業社員	
97	株式会社横浜銀行三崎支店	神奈川県三浦市三崎町		
98	徳島県水産高等学校	徳島県海南市日和佐町		
101	倉敷レイヨン株式会社ビニロン販売部長	大阪市北区梅田町第一生命ビル		
102	倉敷レイヨン株式会社東京事務所	東京都中央区日本橋室町2ノ2		
104	山田撚糸株式会社	八尾市亀井271		
105	株式会社安部貿易商会	東京都千代田区大手町東京貿易会館		
107	大洋漁業株式会社漁労部	東京都千代田区丸ノ内新丸ビル		賛助会員
108	桜水産株式会社	東京都千代田区神田錦町2の11		
109	海上電機株式会社東京営業所	〃 1の19		
113	高橋孝七	日魯漁業株式会社三崎事業所		
115	長谷川広吉	神奈川県三浦市三崎町	魚問屋	

（つづく）

謹 賀 新 年

鋼製漁船 漁業練習船及び 其の他各種船舶の
建 造 並 修 理

株式会社 **三 保 造 船 所**

取締役社長 植田朋八
専務取締役 平岡昌一
常務取締役 道家長松

本社 工場 静岡県清水市三保3797番地
電話清水2局2201(代表)—5
東京事務所 東京都中央區八重洲3の7(東京建物ビル)
電話東京28局6341(代表)—3

神奈川県水産試験所

場長 永井三夫
他一同

神奈川県三浦市三崎町向ケ崎
電話 三浦(代表)2105・3218番

鮪漁業研究会

会長 菅野進
副会長 四宮秀雄
専務理事 伊藤順男

神奈川県三浦市三崎町向崎
電話三浦(代表)2105・3218番

三崎漁港管理事務所

所長 若生光一
他一同

神奈川県三浦市三崎町六合2451
電話三浦3584番

鮪漁業

1960年新年号

昭和35年1月10日印刷
昭和35年1月10日發行

監修 神奈川縣水産試験場
編集兼發行人 菅野進
神奈川縣三浦市 神奈川県水産試験場内
發行所 鮪漁業研究会

謹賀新年

—1960年

元　旦—

日新興業株式会社

本　社　大阪市北区中之島3ノ3（朝日ビル）電話23代表9736番
東京支店　東京都中央区銀座3ノ3（朝日ビル）電話57代表7607番
清水出張所　清水市三保駅前　電話清水(2)3507番
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町西野34　電話三浦2751番
其の他の事業所　高知県室戸・静岡県焼津・神奈川県浦賀・宮城県気仙沼
宮城県石巻

最新の技術と堅牢・高性能を誇る
穂高の漁業無線機を

穂高通信工業株式会社

本社工場　東京都新宿区下落合1—6　TEL (95) 2595・6219番
大阪営業所　大阪市西区京町堀上通2—21協栄ビル　TEL (44) 5792・4106番
長野工場　長野県南安曇郡穂高町2597　TEL（穂高）61番
代理店　小樽・函館・八戸・気仙沼・石巻・塩釜・小名浜・那珂湊・銚子
三崎・清水・焼津・室戸・下関

魚群探知機・音響測深機・強力発音機

株式会社　産研

本社工場　静岡県沼津市千本郷林1907
電話（沼津）1626・4543番
東京営業所　東京都千代田区神田鍛冶町2ノ2（今川橋ビル）
電話（神田）(25) 0381・5444番
下関事務所　下関市新地町149ノ3　電話下関 (2) 275番

日本無線代理店

三崎日本無線

神奈川県三浦市三崎町仲崎185　電話三浦2888番

神奈川県漁業無線協会

会長　長崎勝平
主事　川崎淳一郎
神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎
電話（三浦）3218番

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010—19　電話　清水 (2) 4111～5番
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水 (2) 5151～2番
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話 芝 (59) 1306～8番
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）2851番

謹

崎吉丸

崎島理平

神奈川県三浦市三崎町宮城4番地
電話2590番

第三十振興丸

石渡庄次
石渡春吉
石渡喜久司

神奈川県三浦市三崎町西浜46 電話（三浦）2760番

賀

新

漁船の氷•餌料の仕入は三崎漁連へ

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長 寺本正市

神奈川県三浦市三崎港 電話（三浦）2609•2655番

㊞漁

三崎沿岸漁業協同組合連合会

会長 宇田川勝次

神奈川県三浦市三崎町西野92番地
電話 市場（代）3161番 冷凍工場3406番

年

製氷冷蔵•凍結餌料

三崎遠洋漁船製氷株式会社

取締役社長 四宮秀雄 取締役副社長 米沢六蔵
三浦市三崎町向ヶ崎 電話（三浦）3356•3372番

大漁迎春 昭和35年元旦

三浦市長
三崎漁港振興協議会長 矢島晴夫

＝1960年
元旦＝

漁業者の御定宿

岬陽館

三浦三崎港
電話（三浦）2101（代表）•2102•2103

割烹旅館

温泉亭

神奈川県三浦市三崎町日ノ出
電話三浦（代）3118•3119番

謹賀新年

—1960年元旦—

日本鋼管株式会社
清水造船所
清水市三保塚間395番地
電話清水(2)(代表)1211～6番
電略「コウカンシミズ」

まぐろ船用最新鋭機器
川崎ヘルショウ式電動油圧舵取機・特許川崎式造水装置
川崎エッシャ・ウイス式可変ピッチプロペラ
川崎重工業株式會社
本　社　神戸市生田区東川崎町2ノ14
東京支店　東京都港区芝田村町1ノ1日比谷ビル

日本冷蔵株式会社
東京都中央区湊町3ノ8　電話 築地(55)代表 2101番 1121番

山田物産株式会社
社長 山田輝男
神奈川県三浦市三崎町通り矢2171
電話三浦 2667番

横須賀市長
長野正義

船舶向薬品・一般医薬
有名化粧品・カメラD.P.E
イワノ薬局
神奈川県三浦市三崎町
本店 日の出 電話2249番
支店 公園前 電話2629番

共和丸漁業生産組合
下里和須蔵
神奈川県三浦市三崎町六合2446
電話(三浦)3016番

城ヶ島遠洋漁業生産組合
組合長 安達三郎
神奈川県三浦市三崎町宮城103番地
電話 三浦 2728番

健康な身体を保つ
純良医薬品
有限会社 佐藤薬局
三浦三崎港
本店 電話3577番
支店 電話2610番

全漁連系統燃油・綿・クレモナ撚糸製缶販売
船用機器類・漁業資材取扱
神奈川県漁業協同組合連合会
三崎出張所
所長 野本明
三浦市三崎町花暮157
電話 三浦 3430番

謹

宝幸水産株式会社

本　社　東京都中央区新富町3ノ2
三崎事業所　三浦市三崎町宮城5
電話三浦 2241・2307番

奥津水産株式会社

代表取締役　奥津政五郎
神奈川県三浦市三崎町花暮182
電話三浦 3608番

賀

新

五洋水産株式会社

本　社　東京都千代田区丸ノ内2ノ2
(丸ビル6階) 電話⑳ 4684番
三崎営業所　神奈川県三浦市三崎町二町谷
電話(三浦) 2353・2625番

大黒丸
徳南水産株式会社

社長　小島政夫
神奈川県三浦市三崎町仲崎261
電話三浦(代表) 3111番

年

光栄丸
金沢徳尾

神奈川県三浦市三崎町花暮132番地
電話 2321・2836番

山村大黒丸
山村利久

神奈川県三浦市三崎町花暮163番地
電話 2962・3071番

—1960年
元旦—

株式会社　長谷川商店

取締役社長　長谷川広吉

神奈川県三浦市三崎町宮城98番地

魚問屋
有限会社　西松商店

代表取締役　湊勝雄
専務取締役　相原寛治
電話(三浦)事務所　3227・2969・2607番
市場代　2111・2121(現)・2131(事)

謹賀新年

—1960年 元旦—

順光漁業株式会社
代表取締役 水野平吉
神奈川県三浦市三崎町花暮 146
電話(三浦) 2058・3221番

崎吉漁業株式会社
東京都中央区明石町51
日本海員掖済会ビル内
電話(54) 2163～4番

横須賀市浦賀港
遠洋漁業 高知丸
上原虎松
電話(浦賀) 150番

有限会社 高知屋造船所
電話(浦賀) 216・472番

(は) 大洋漁業株式会社
三崎営業所 所長 長崎勝平
三崎営業所 神奈川県三浦市三崎町仲崎190 電話三浦(代表)2151・2774
本社 東京都千代田区丸ノ内1ノ4 新丸ビル6階
電話千代田(27)代表1041・1241

三信汽船株式会社
本社 東京都千代田区丸ノ内6ノ1ノ1
海上ビル新館7階
電話(28) 4516～8番

三崎船長航海士協会
三浦市三崎町花暮
電話(三崎) 2071番

比重調整
樹脂加工
クレモナまぐろロープ

特徴
① まぐろの喰い良い
② 毎航海のタール染不要
③ 他の追随を許さない耐久力と耐摩耗力

営業種目……クレモナ、綿延縄及び仕立、漁具一式、救命筏

アサヒテックスロープ株式会社
本社 東京都三鷹市下連雀四〇〇番地 電話武蔵野(2 3978・7923番
出張所 神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地 電話 三浦2957番

謹賀新年
—1960年 元旦—

琉球水産株式会社
社長 長嶺彦昌
沖縄那覇市西新町2ノ7

神奈川県漁港協会
会長 矢島晴夫
横浜市中区日本大通1 神奈川県庁水産課内

神奈川県漁船保険組合
組合長 矢板開一
外役職員一同
横浜市中区日本大通 神奈川県庁水産課内
電話 横浜 (2) 4921番

面白い程獲れる……
ナイロン鱗光延縄
芦森工業株式会社
本店 大阪市東淀川区元今里北通1ノ45
支店 東京都中央区日本橋本町3ノ1

営業品目 漁網・延縄・漁具・製造販売 船具・機械電気用品販売 石油元売
日本漁網船具株式会社
本社 東京丸ビル6階 電話(20)代表1841番
営業所 下関・函館・大阪・戸畑・長崎
出張所 釧路・札幌・小樽・仙台・名古屋
油槽所 川崎・女川・下関・名古屋
工場 下関・函館・釧路・小樽

合成繊維とマニラ麻の
漁網・ロープ・岩糸・延縄
古い伝統・新らしい技術
品質本位
市川漁網製造株式会社
愛知県宝飯郡形原町

三崎港遠洋漁船船員
消費生活協同組合
組合長 寺島幸太郎
専務理事 林藤一郎
神奈川県三浦市三崎町花暮181
電話三浦代表 3131番

三洋資材株式会社
神奈川県三浦市三崎町仲崎103
電話三浦3006番

謹

焼津漁業協同組合 電話(代) 3111・4191番

組合長理事 近藤久一郎
専務理事 滝口佐左ヱ門
常務理事 近藤勝次
常務理事 服部毅一
常任監事 見崎鹿造

昭和漁業株式会社

静岡県焼津市城之腰115番地ノ1
電話(代) 2131番

賀

新

焼津遠洋漁業協同組合

組合長理事 増井磯太郎

静岡県焼津市中230番地

廻船魚問屋・缶詰・鰹節
遠洋漁業・冷凍魚輸出
シェル石油代理店・餌料

株式会社 松村友吉商店

焼津市築港
電話 本社 焼津 2141〜2143番
缶詰工場 4115〜4116番

年

清寿漁業株式会社

静岡県清水市村松南75
電話清水 (2) 5101—4番

静岡県鰹鮪漁業協同組合
組合長 久保田太郎吉
静岡県鰹鮪漁業者協会
会長 竹内浅吉
静岡県焼津市中234番地
電話焼津 2424番

—1960年
元旦—

横浜ゴム製造株式会社
藤倉ゴム工業株式会社 代理店
出港用品一式
有限会社 ヨコハマ屋
代表者 渥美大三郎
三浦市 三崎港 電話三浦2824番

農林省水産講習所
淪溟会
下関市吉見永田本町1944

社団法人 漁船協会
理事長 木村嘉次
東京都千代田区丸ノ内
(丸ビル603号)
電話 和田倉 (20) 4588番

謹賀新年

全国水産高等学校実習船運営協会理事長代
全国高等学校長協会水産部会理事長
本間久吉
千葉県館山市長須賀155番地
千葉県立安房水産高等学校内
電話（館山）310番・1240番

新大和公司
SHIN TAI HO & CO.
NO. 4 STANLEY STREET
SINGAPORE - 1
CABLE ADDRESS "YAMATO SINGAPORE"
TELEPHONE NO. 78485, 78560, 78567
SHIPPING AGENCY & SHIP'S CHANDLERS
新大和公司東京事務所
東京都千代田区九段1―4蜂谷ビル内
電話(30)1835番

村松印刷株式会社
社長 村松節夫
本社 横須賀市大滝町2ノ15
電話横須賀 254・663・957番
工場 横浜市金沢区六浦町4033
電話 金沢(7) 9992・9993・9131番

専売特許
PCC
石炭重油添加剤
ファインコーク
耐熱伸縮性充填剤
日本添加剤工業株式会社
本社工場 東京都板橋区志村前野町884電話東京(96)1738・7737番
営業所 東京都千代田区神田司町2（大舘ビル）電話東京(25)（代表）9136番（直通）7910番
大阪支店 大阪市西区江戸堀北通1 電話大阪(44)5551―5555番
（富士産業株式会社 川崎市浜町1ノ36 電話川崎(2)4403番）

―1960年 元旦―

高知県室戸岬漁業協同組合
浦賀出張所
所長 釣井高明
外職員一同
横須賀市西浦賀町1ノ9
電話浦賀135・656番

神奈川県石油業協同組合
三崎支部

株式会社阿部喜商店・出光興産株式会社三崎出張所
合名会社香山石油店・株式会社亀井商店三崎支店
共栄石油株式会社・株式会社吉沢石油店
東亜石油株式会社三崎営業所・湊商事株式会社三崎出張所
三崎石油株式会社・日本民衆産業株式会社三崎出張所
下竹石油

財団法人

日本冷凍食品検査協会

会長　木梨信彦
理事長　稲村桂吾
東京都千代田区霞ヶ関3ノ3（鋼鈑ビル）
電話東京(59)4604・7680・9028・9029番

謹　賀　新　年

日本冷凍食品輸出組合

理事長　中部謙吉
東京都千代田区霞ヶ関3ノ3（鋼鈑ビル内）
電話東京(59)2865・8652・8653番

日本輸出冷凍鮪販売株式会社

取締役社長　中部謙吉
取締役副社長　三宅二一郎
取締役副社長　寺本正市
東京都千代田区霞ヶ関3ノ3（鋼鈑ビル）
電話東京(59)8586—7・8848—9番

株式会社東京商社

本社営業部　東京都中央区銀座西2ノ3　中島ビル
電話京橋(56)0664・5090・5091番
経理部　東京都千代田区丸ノ内丸ビル759号
電話和田倉(20)3451・8811番
清水冷凍工場　静岡県清水市八千代町2ノ26
電話清水(2)1901・6432・7745番

冷凍鮪輸出水産業組合

理事長　中部謙吉
副理事長　三宅二一郎
副理事長　増田正一
東京都千代田区平河町2丁目7番地
電話(30)2555—6番(直通)(33)5561—5番(交換)

—1960年
元旦—

輸出ヴィタミン油・缶詰・冷凍魚
遠洋漁業・各種魚類肝臓買付

湘南水産工業株式会社
東邦食品工業株式会社

神奈川県三浦市三崎町二町谷3806ノ4
電話三浦3370番・3217番

社団法人

大日本水産会

東京都港区赤坂溜池1番地（三会堂ビル）
電話赤坂(48)代表8781番

漁船保険中央会

東京都港区芝田村町3ノ4清寿ビル
電話(59)0667番（会長室）
3276—7番

遠洋漁船の建造、修理の御用命は

下　田　船　渠　株　式　会　社

取締役社長　沢　村　正　三

本　　社　静岡県賀茂郡下田町1187　電話(下田局)1001番(代表)～9番
東京事務所　中央区銀座東4丁目4　畜産会館　電話(54) 9270番(直通)

謹

三崎船舶工業株式会社

取締役社長　平　井　顕

神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446番地
電話(三浦) 2880番 (代)3141番

漁船修理30年の経験・親切で安い

静　浦　ド　ッ　ク

船の為には乾ドックに限ります
乾ドック2基(800トン・250トン)上架線4基

沼津江ノ浦港・電話江ノ浦11・111番

賀

船具漁具・海洋調査測器・舶用計機械・理化学機器・漁業資材

日本民衆産業株式会社三崎出張所

神奈川県三浦市三崎町仲崎36番地
電話(三浦) 2505・3503番
本　社　東京都中央区日本橋室町3ノ3番地
麻　綱　会　館　内
電話日本橋(24) 0782・5615番
下関営業所　下関市西細江町(市民会館内)

新

船具・漁具・其の他一般工具

株式会社　山　星　船　具　店

神奈川県三浦市三崎町花暮125
電話三浦2965・3663番

年

—1960年
元　旦—

株式会社　横浜銀行三崎支店

支店長　尾　崎　音　治　郎

船舶配線工事・バッテリ・無線機・電機
販　売　修　理

無線機器材
電機資材　有限会社　蔦川電機商会

TEL. (三浦) 2674・2697番

三崎漁業資材株式会社

神奈川県三浦市三崎町西野7
電話(三浦) 2449番

謹賀新年 1960

薩　州　丸
伊藤漁業株式会社
社　長　伊藤由五郎
神奈川県三浦市三崎町仲崎85
電話（三浦）2445・2825番

福生水産株式会社
神奈川県三浦市三崎町花暮121
電話　三浦　3252・2837番

大成水産株式会社
神奈川県三浦市三崎町仲崎 142
電話（三浦）3379番

かくじう水産株式会社
社　長　畠山泰蔵
本社　宮城県気仙沼市魚町
電話　117番
出張所　神奈川県三浦市三崎町天神堂2461
電話（三浦）2004番

孝　勇　丸
孝勇丸漁業生産組合
佐藤孝吉
神奈川県三浦市三崎町東岡3504
電話（三浦）2771番

株式会社
山口県漁業公社
三崎事業所
神奈川県三浦市三崎町花暮 141
電話（三浦）2250番

豊　州　丸
三　木　久　雄
神奈川県三浦市三崎町入舟53番地
電話（三浦）2482番

第6幸漁丸・第7幸漁丸・第8幸漁丸
荻布漁業部
荻　布　貞　雄
富山県高岡市片原横町1087
電話　657番

神奈川県鰹鮪漁業者協会
会長　菅野　進
参事　水戸邦雄
神奈川県三浦市三崎町
電話（三浦）3375番

謹賀新年

＝1960＝

倉敷レイヨン株式会社

大阪市中央郵便局　私書函　才400号
大阪市北区梅田2番地（才一生命ビル内）
電話 大阪 (36) 1351番（大代表）

◇ クレモナ・テビロン・延縄・ロープ　岩糸製造
マニラ　ポリエチレン
◇ 劃期的減磨剤"メタループ"　販売特約店

国産製麻株式会社

本　　社　東京都中央区京橋3ノ4　TEL (28) 6605—6番
三崎連絡所　三浦市三崎町花暮136　TEL 3403 番
工　　場　栃木県鹿沼市朝日町　才一・才二工場

営業内容　綿・クレモナ　鮪延縄　綿撚糸　製造販売
倉敷レイヨン株式会社　クレモナ延縄指定工場

山田撚糸株式会社

本社工場　八尾市大字亀井　電話（東住吉）559・2113
東京営業所　東京都品川区西戸越二ノ六七二　電話 荏原 (78) 6553

報國水産株式会社

社長　江島静男

東京都中央区小田原町一の一番地
電話 (54) 1941—5番

各種船舶並に漁船新造修理
炭砿機械一般鉄構製品其の他製作

三菱造船株式會社
下関造船所

下関市大字彦島1130番地の10
電話　代表　下関②8111番

謹賀新年 昭和35年元旦

神奈川県鰹鮪漁業協同組合

組合長　寺本正市

神奈川県三浦市三崎町西野92番地

電話（三浦）
- 總務部 3185（代）—6番
- 業務部 3101（代）—6番
- 電気資材専用 2217番

三崎魚類株式会社

社長　久野又兵衛

神奈川県三浦市三崎港

電話（三浦）
- 市外専用売場（代表）2111—5
- 市外専用売場（代表）2121—5
- 市内専用売場（代表）2161—5
- 事務所専用（代表）2131—3
- 役員室 2131　船員寮 3387
- 製函部 2675　自動車部 3206

取引銀行　横浜銀行三崎支店

多年の技術と經驗を生かす！

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷藏・製氷・冷房

- 冷凍・冷藏・製氷工場
- 急速・空氣凍結装置
- 冷房装置・冷凍機械器具
- 防熱装置・船舶冷凍冷藏

設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話　東京（866）0996・0997番
札幌営業所　札幌市北五条西5丁目　電話　札幌（2）4895番

謹賀新年　昭和35年元旦

◇新時代の冷凍機◇
（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）
漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設
設計・製作・施工

株式会社 東洋製作所

本社・工場　東京都品川區東品川5の61
電話大崎(49)代表2171—9番(49)2170・6004番 營業部直通
営業所　大阪市北區梅田町47（新阪神ビル）
電話(36)代表0974—5(36)2171—9（内線350—1）

鮪漁船の青酸ガス燻蒸・殺虫・消毒には東洋燻蒸の連絡所を新設しましたから御用命下さい

三崎連絡所　三浦市三崎町花暮158（県漁連隣）電話3548

石田商店
石田芳正

東洋燻蒸株式会社

本社　東京都中央区京橋三ノ一　電話(56)3982番（直通）
横浜支社　横浜市神奈川区榮町二ノ二七　電話(44)3334番
清水出張所　清水市常盤町一三　電話(2)6938番

▷最高の技術……永い信用◁

営業種目
高級無線通信機　ラジオヒーター
船舶用無線機　放送施設一式
高級無線用測定器　極超短波通信機
超短波通信機　ビーコン装置
VHF新聞通信社用

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話砧(41)(代)7171—9番
電話武蔵調布472番
東京營業所　東京都港区芝西久保櫻川町9　電話芝(43)代表7373—9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25（江商ビル508号室）　電話北浜(23)4553番
福岡出張所　福岡市天神町55（伊藤ビル）　電話中(4)2569・8198番

謹賀新年

営業品目

商船用・漁船用並に陸上用無線通信装置

SSB 無線装置の製造・装備・補修一式

七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地

電話目黒（712）2525・2526・3314番

太洋無線が世界に誇る

船舶用　航空機用　陸上用　各種

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都澁谷区栄樂町48番地

電話澁谷（46）代表5283—9番

緑星社のＳＶ60型ラジオブイ

用途；鮪延縄・鮭鱒流網・捕鯨・底曳トロール

漁具流失防止　位置確認　操業時間短縮　等々

株式会社 **緑星社**

代表取締役　吉田内次

営業所　東京都中央区小田原町2の15 電話（代）1505-6・1797-8番

研究所　東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）

電話（54）2371番

函館出張所　函館市根崎町140番地 電話函館（2）5825番

謹賀新年

倉敷ビニロン **クレモナ** 万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網

くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町　2の4

═設　備　完　成═

鋼木船造修一般

500噸船台三基
起重機10噸・5噸各一基

三崎船舶工業株式会社

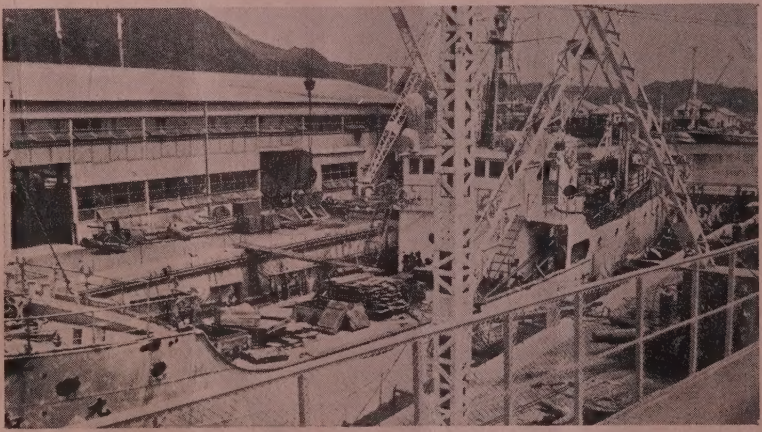
本社　東京都中央区西八丁堀2の10
電話築地（55）966・15
工場　神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446
電話（三浦）2880・2934・2343

謹賀新年 1960

漁船の建造、修理の御相談は

ドライドック	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅(型)	吃水(平均汐高線1.7米に於て)	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500屯	2
		2条軌条式	50 米	250屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ケ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4―4 畜産会館1階　電話東京(54)9270(直通),4121(代表)～8番

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業 第六十五号 昭和三十五年一月十日発行 (毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可